

・ 総合研究報告書（3）

**ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の評価および ATL 発症リスク
評価の適切な運用指針の確立を目指す研究（渡邊グループ）**

厚生労働省科学研究費補助金 がん政策研究事業

平成26年度～平成28年度総括研究報告書

ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の評価および

ATL 発症リスク評価の適切な運用指針の確立を目指す研究

グループ代表者 渡邊俊樹 聖マリアンナ医科大学

分担研究者

内丸 薫	東京大学	飛内賢正	国立がん研究センター中央病院
足立昭夫	徳島大学	塚崎邦弘	国立がん研究センター東病院
岩月啓氏	岡山大学	山野嘉久	聖マリアンナ医科大学
岡山昭彦	宮崎大学	森内浩幸	長崎大学
金倉 謙	大阪大学	齋藤 滋	富山大学
岩永正子	長崎大学	石塚賢治	鹿児島大学

研究要旨:本グループの研究計画は「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と提言(柱1)と「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討(柱2)の2つの課題を遂行する事である。3年間の活動概要は以下の通りである。柱1: 「学術シンポジウム」「国際シンポジウム」を開催し、国内外の研究者との情報交換と議論を行った。「日本 HTLV-1 学会学術集会」の第1回から第3回までを共催した。関係学会・研究会における発表内容の調査を行った。年間2回のペースで開催される「HTLV-1 対策推進協議会」への参加と議論の情報交換、年3回開催の班会議を通じた評価と議論を行った。柱2: 当研究グループの専門家による情報収集と評価・検討を進め、公にリスク告知の議論を行う時期と条件を慎重に検討した。その結果、現時点では「リスク告知」の議論を進めることは時期尚早であるとの判断になった。

A. 研究目的

ATL はその発見から30年以上が経過しているが、未だに有効な治療法が確立されておらず、予後不良である。原因ウイルスである HTLV-1 は国内に少なくとも約110万人の感染者がおり、ATL 患者も年間約1200人発症し毎年1000人以上が亡くなっている。この現状を背景に、2010年に首相官邸に特命チームが組織され、「HTLV-1 総合対策」が策定された。この対策では、HTLV-1 関連疾患対策として、感染予防、発症予防、新規治療法開発の3点を課題として、医療行政および研究開発に積極的に取り組む事が規定されている。申請者らはこれらの作業に当

事者として深く関わってきた。従って、本研究の目的は、「HTLV-1 とそれによって発症する ATL および HTLV-1 関連疾患」について、感染予防、発症予防、新規治療法開発、の観点から「HTLV-1 関連疾患研究領域」の各研究事業の進捗状況の把握と評価を行い、国内外の状況と比較検討し、戦略的かつ総合的な観点から評価して総合的かつ効率的な研究体制の提言を行う。また、「ATL 発症リスクの告知の指針」策定と適切な運用のあり方について検討を進めることである。

B. 研究方法

「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と

提言（柱1）と「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討（柱2）の2つの課題について取り組んできた。最終年度に当たっては、柱1については、全体の現状把握と評価に基づく提言を取りまとめ、当該領域の適切かつ効率的な運用に資することを目指す。柱2については、リスク評価研究の現状と高リスクキャリアに対する介入手段の有無と研究開発の現状を把握し、「ATL 発症リスク告知」の適否および、議論を進める上での必要な条件とタイムテーブルに関して合意形成を行なった。

柱1「HTLV-1 関連疾患研究事業」の評価と提言：研究分担者が各班会議に参加しての評価書の作成や、「学術シンポジウム」「国際シンポジウムあるいは特別講演」の開催や各種研究会支援を通じて、国内外の研究進捗状況を把握・評価し、現状と課題を整理した年次報告書を作成し、最終年度には包括的な提言と「指針」をまとめることを計画した。

柱2「ATL 発症リスク告知の指針」策定を目指す検討：「リスク告知の指針検討委員会」は HTLV-1 関連疾患専門家、遺伝相談、医療倫理の専門家と患者・キャリアの代表で構成し検討、合意形成を目指した。

3年間の研究期間で取り組んだ課題をまとめると以下の様になる。

(1)国内における ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

「HTLV-1 関連疾患研究領域」と指定された厚生労働科学研究費の研究事業（2015年度からは、日本医療研究開発機構(AMED)および関連の厚生労働科学研究費による研究事業）による研究の現状把握と評価

当該領域学会の共催および情報把握

(2)国際的な ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

国際シンポジウムの開催

国際学会等での情報収集

(3)HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同成果発表会の開催

(4)他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状調査と評価

(5)「HTLV-1 対策推進協議会」と班員

との情報交換

(6)年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論

各課題に即して概説すると以下の様になる。

(1)国内における ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握

「HTLV-1 関連疾患研究領域」に含まれる研究事業による研究の現状把握と評価：「HTLV-1 総合対策」推進の責任部署である労働省結核感染症課が指定した、2014～2016年度(平成26年度～28年度)の「HTLV-1 関連疾患研究領域」の研究課題に加えて関係する研究事業の班会議開催に際して、当研究グループの班員がオブザーバーとして参加し、所定の評価用紙に評価を記載して報告し、班会議などを通じて議論する。

当該領域学会・研究会の共催および情報把握：他の省庁・機関によって支援されている ATL に関わる研究課題および研究組織を含めて、研究の進捗状況把握のため、各種研究会の開催支援と情報収集を行う。これにより、基礎から臨床までの幅広い研究組織の活動実態と進行状況を把握し評価する。

(2)国際的な ATL 及び HTLV-1 関連領域の研究の現状把握：

「国際シンポジウム」あるいはそれに相当するイベントの開催：海外と国内の研究者各々数名を招待してシンポジウムを開催し、国外での研究進展状況の把握、情報交換と交流を促進し、我が国の研究の評価と位置付けを行うとともに、国際的研究協力の可能性を追求する。

国際学会等での情報収集：班員等が関連の国際学会・研究集会等に参加して情報収集・情報交換を行う。

(3)HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同発表会の開催：2014～2016年度

(平成26年度～28年度)の各年度ごとに、当研究領域で採択されている研究事業に加え、関連の研究事業の研究代表者が、年度末に一同に会して当該年度の研究の進捗状況を発表し、議論する機会を設ける。この発表会終了後に当研究班の第3回班会議を開催し進捗状況や問題点に関して議論する。

(4) 他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状と評価: 特に、文部科学省の科学研究費補助金による研究事業と、「HTLV-1 関連疾患研究領域」の枠に含まれない日本医療研究開発機構 (AMED) の研究事業の有無につき、情報を集めて整理・分析し、本研究領域の研究課題との関係等を検討する。

(5) 「HTLV-1 対策推進協議会」と班員との情報交換: 「HTLV-1 対策推進協議会」における議論の内容について、その議事録中心に班員に紹介し、班会議等で議論を行う。

(6) 年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論: 班会議を年3回開催し、情報交換、関連班研究の進展状況の情報共有と評価に関する議論を行う。

以上の様な作業を通じて、医療行政に適切な情報発信を行うとともに、総合的かつ戦略的な研究推進体制の確立に貢献する。

(倫理面への配慮)

本研究計画は、その性質上「倫理面への配慮」を特に考慮する必要がない。

C. 研究結果

(I) 個々の活動の概要

(1) 「HTLV-1 関連疾患研究領域」の厚生労働科学研究費および日本医療研究開発機構 (AMED) による研究事業の研究の現状把握と評価:

(A) 「HTLV-1 関連疾患研究領域」全体の現状

周知の様に「HTLV-1 関連疾患研究領域」は、当初は、研究領域の趣旨をふまえて、既存の各領域の研究事業の枠内で幾つかの研究課題を採択し、当該領域の研究として統一的に推進を図ることを目指している。

しかしながら、2015 年度 (平成 27 年度) からは、直接医療行政に関わる厚生労働科学研究費の課題を除き、大多数の医学領域の研究事業が日本医療研究開発機構 (AMED) へ移管された。これに伴い、「HTLV-1 関連疾患研究領域」とされるもののうち 3 件のみが厚生労働科学研究費の枠内の研究事業となっている。

2014~2016 年度の「HTLV-1 関連疾患研究領域」の推移を表 1 にまとめた。この期間に「HTLV-1 関連疾患研究領域」の研究事業として採択された研究課題はのべ 24 件となる。研究期間についてみると、2014 年度で終了したものが 2 件、2015 年度で終了したものが 4 件である。また、2014 年度から開始された研究事業は 16 件、そのうち 3 件は研究期間 2 年で、2015 年度で終了した。その他の 13 研究事業は 3 年間の研究期間最終年度は 2016 年度となっている。

各年度ごとの採択研究事業数を見ると、2014 年度 19 件、2015 年度 20 件、2016 年度 18 件と大きな変動はなく、推移している (表 1)。一方、本領域に指定された研究事業の研究費の総額の推移について検討すると、2014 年度は総額 1,421,021 千円、2015 年度は 1,450,854 千円であるのに対して、2016 年度では 867,287 千円と、前 2 年度分に比較してほぼ 3 分の 2 に減額となっていることが注目される。ただ、全体として見ると「HTLV-1 総合対策」が策定され「HTLV-1 関連疾患研究領域」が設定された際の「研究費として年間 10 億円を目安に配分する」とした、当初の規定はある程度維持されてきたと判断することができるであろう。

2014~2016 年度までの研究課題の領域的な分布について検討すると以下の様になる。

1. ウイルス学および抗ウイルス薬開発: なし
2. ウイルス感染の実態把握と感染予防関係: 6 研究事業
3. 感染細胞の特性解析・増殖制御: 1 研究事業
4. HAM 等関連疾患関係: 7 研究事業
5. ATL および腫瘍学関係 (臨床治験をふくむ): 8 研究事業
6. 医療行政的内容のもの: 1 研究事業
7. その他、難病や関連疾患の大規模解析プロジェクト: 1 研究事業

このような研究課題の領域の分布を見ると、他のウイルス感染領域の研究事業 (例えばエイズ対策研究事業、肝炎対策研究事業) と比較し、研究費の規模の違いは

別に、ウイルスを直接対象としたウイルス学および抗ウイルス薬に関わる研究課題が採択されていないことが大きな特徴であるとともに研究領域全体の問題点である。一方、ATLの領域で総計8つの研究事業が採択されており、特に「革新的がん医療実用化研究事業」の研究事業では、「付随研究」として、統合的ゲノム解析研究、分子標的探索、バイオマーカー探索等をふくむ基盤的な研究内容が組み込まれており、治療研究と病態解明の基礎研究が有機的に連携した形で採択されていることは、今後の癌研究領域のあり方として大きな意義があると考えられた。HTLV-1関連疾患のHAMに関係した研究事業が7件採択されていることも注目される。発症率はATLの10分の1で、現時点での総患者数が約3000人と推定される希少難病に対する研究事業としては手厚いサポートを受けていると考えられる。しかし、研究の推進が一部少数の研究者に依存していることは、領域としての課題であろう。

(B)各研究事業の研究進捗状況の評価

オブザーバーによる各研究事業の進捗状況の評価：

「HTLV-1関連疾患研究領域」の研究事業に関して、その研究班会議に、本研究班グループの分担研究者1～数名がオブザーバーとして参加し、研究の進捗状況の把握と評価を行った。

具体的には、小規模の研究事業のため班会議を開催しない研究班と班会議開催日が年度末に予定されているものを除き、分担研究者がオブザーバー参加し、評価書を作製した。評価書のまとめは資料として添付した(資料1～3参照)。

評価シートは、「進捗状況について」と「今後の展望について」の欄があり、それぞれに自由記載の形でコメントを記載した。個々の研究班ごとに、オブザーバーから高く評価出来る点と、検討課題として今後の取り組み・改善を求める点が指摘されていた。

全体の評価は「ほぼ順調に進展している」と言うものが大多数であったが、一部の臨床研究では患者の登録の遅れや治

験薬の入手準備に遅れが見られ、期間内での研究完了に懸念が示されたこれらの評価書をそれぞれの研究代表者へ送付し、事後の研究推進計画策定の参考として利用してもらった。

評価委員からの第三者的コメントは、それぞれの研究事業の適正且つ効率的な運用に資するところが大きいと考えられた。

(2)国内のATL及びHTLV-1関連領域の研究の現状把握

2014-2016年度にかけて、各分担研究者が、それぞれの専門領域の国内学会(ウイルス学会、分子生物学会、血液学会、神経免疫学会、がん学会等)の学会に参加し、成果の発表と同時に、関連領域の研究に関する情報収集を行った。

また、2013年10月に、従来のHTLV-1研究会を母体として発足した「日本HTLV-1学会」の学術集会を第1回から3回まで共催し、当研究領域の研究成果の発表と情報交換の場とした。第1回と2回学術集会では約220名、第3回学術集会では400名余の参加があり、熱心な議論が行われた。(資料4～6参照)

(3)国際的なATL及びHTLV-1関連領域の研究の現状把握：

学術シンポジウムの開催：

国際的な研究活動の現状把握と、海外の研究者との情報交換および交流を目的に、2014年から2016年まで、「学術シンポジウム」「特別講演」あるいは「国際シンポジウム」の形で、「日本HTLV-1学会」と併催の形で開催した。各年度のシンポジウムのプログラムは資料7～9に示す。

2014年度は、「アジアにおけるHTLV-1感染と関連疾患の実態」をテーマに、韓国、中国、台湾から専門家を招き、我が国の日赤の情報を合わせて講演し、情報共有と交流の機会とした。2015年度は「HTLV-1ワクチン開発の現状」をテーマに、我が国の3名の研究者とフランスの研究者から、感染予防ワクチンおよび発症予防ワクチン開発の現状についての講演を行い、情報共有と交流を行なった。

2016年度は、日本HTLV-1学会第3回

学術集会の「特別講演」として、理事長の渡邊から「ATL 研究の現状－発症予防と個別化治療へ向けた展開」についての講演を行い、海外からはフランスのパスツール研究所から **Gessain** 博士によるアフリカにおける **HTLV** の水平感染の実態、オーストラリアの **Einsiedel** 博士による、オーストラリア原住民における **HTLV-1** の感染の実態と関連疾患としての呼吸器疾患の状況を講演してもらった。これらのシンポジウム・講演会は、国内外の研究者による情報交換と交流の貴重な機会となった。

国際学会等での情報収集：

分担研究者は、各年度において、当研究事業による派遣あるいは各自の資金により独自に、米国血液学会(**ASH**)、ヨーロッパ血液学会(**EHA**)、国際悪性リンパ腫会議(**ICML**, ルガノ)、**T-cell lymphoma Forum (TCLF)**, サンフランシスコ)などに参加し、情報の収集と国際的交流を行った。

(4) HTLV-1 関連疾患研究領域の研究班の合同発表会の開催：

2014 年度から 2016 年度まで、毎年度末の 2 月の第 1 週土曜日に東京大学医科学研究所講堂あるいは同附属病院トミーホールで、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」研究班合同発表会を開催した(資料 10～12 参照)。この発表会は、研究計画に従い、毎年度「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」全体を俯瞰しながら、**ATL** および **HTLV-1** 関連疾患分野の研究の現状と進展状況を包括的に把握する事を目指したものである。2016 年度は、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」の課題に指定されていない以下の 3 つの研究課題の代表者からも進捗状況の発表をお願いした。

1. (創薬基盤推進研究事業)「抗 **HIV-1** 核酸系逆転写酵素阻害薬アバカビルの成人 **T** 細胞白血病への適応拡大に関する臨床研究」(研究代表者：高折 晃史)
2. (産学連携医療イノベーション創出プログラム(**ACT-M**))「成人 **T** 細胞白血病リンパ腫(**ATL**)に対する新規テラーメイド治療」(研究代表者：小川 誠司)
3. (産学連携医療イノベーション創出プ

ログラム(**ACT-M**))「ヒストンメチル化酵素 **EZH1/2** の二重阻害による革新的がん根治療法の開発」(研究代表者：北林 一生)

この合同成果発表会は、毎回、一般参加者と関係者を合わせて百数十名の参加があり、質疑応答も非常に活発に行われた。したがって、当該領域の様々な研究分野の研究者、臨床家および患者団体メンバーなどとの貴重な交流の場となってきた。

研究進捗状況の評価の一環として、毎回、この合同発表会の内容を評価する「評価シート」を作製し、当研究班の班員が評価を行った。発表会に引き続き、班会議を開催し、発表内容を踏まえた意見交換と評価が行われた。

(5) 他省庁の研究補助金による研究課題の研究に関する現状と評価：

「科学研究費助成事業データベース」を用いて、2014～2016 年度の文部科学省 / 日本学術振興会の科学研究費による研究課題で **HTLV-1** および関連疾患に関わるものを検索したところ全部で 108 件の研究課題が採択されていた(表 2～7)。

文部科学省科学研究費補助金による研究課題の概要

調査対象は、新学術領域の中の計画研究および公募研究、基盤研究(**S**)、(**A**)、(**B**)、(**C**)および挑戦的萌芽研究の研究課題と、若手研究(**A**)と(**B**)、研究活動スタート支援および学術振興会特別研究員奨励費である。**Web** 上で検索可能な範囲では、上記 108 件の研究課題のうち、今年度も(**S**) および(**A**)には **HTLV-1/ATL** 関係の研究課題は採択されておらず、当研究班の研究期間を通じて採択はなかった。採択された研究課題を表にして示すと共に、以下に簡略に記載する。

1. 「新学術領域」あるいは「学術研究支援基盤形成」の中に含まれる研究課題

2010 年度採択の新学術研究領域「予防支援活動 **HTLV-1** 分野」の研究期間が一年延長されて 2015 年度まで存在した。「がん研究分野の特性をふまえた支援活動」の中の「がん疫学・予防支援活動 **HTLV-1** 分野」に、分担研究の形で

HTLV-1 関連の研究課題の5件が含まれていた(表2および別表)。

2016年度からスタートした「学術研究支援基盤形成」の中の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」に「血液悪性腫瘍バイオリソース支援」の形で1件が含まれている。

2. 基盤研究における研究課題

2014～**2016**年度の期間では、既述のように基盤研究の**(S)**および**(A)**には採択課題が無かった。この期間内に基盤研究の**(B)**と**(C)**で採択された研究課題を表3、表4および表4別表に示した。また、挑戦的萌芽研究を表5、若手研究**(A)**と**(B)**を表6に、学術振興会特別研究員奨励費の採択課題を表7に示した。

本研究課題の研究期間中に採択された基盤研究**(B)**はのべ10課題であり、うち継続課題は4件で、新規採択が3件である。継続課題のうち3件は**2015**年度、2件は**2016**年度が最終年度となっていた。期間中の新規採択課題は、**2014**年度が2件(いずれも**2016**年度まで)、**2016**年度が3件である。**2016**年度採択課題の研究期間は2件が**2018**年度で、1件が**2019**年度となっている。

基盤研究**(C)**では、期間中にのべ65研究課題が採択されている(表4)。当研究事業の各年度の新規採択課題数と各年度ごとの総件数は、表4別表に示すとおりである。具体的には、本研究課題開始時(**2014**年度)の時点で、新規採択は11課題、継続課題は27件で、総課題数38件であった。**2015**年度では、それぞれ16件、21件と37件、**2016**年度では、11件、26件、37件となっている。**2016**年度の研究課題のうち、この年度で終了する研究課題が12課題であった。次年度以降に継続するもののうち、**2017**年度終了が13件、**2018**年度終了が10件、**2019**年度終了と**2020**年度終了がそれぞれ1件となっている。

3. その他の研究費

挑戦的萌芽研究は6件が採択されており、そのうち4件が継続で3件が新規採択となっている。継続の4件はいずれも本年度が最終年度となっており、新規採択分は**2018**年度までの3年の研究期間

のものが2件、**2019**年度までのものが1件となっている。若手研究では、本研究班の研究期間3年の間で、のべ25件が採択されていた。若手研究**(A)**は、**2016**年度に1件のみが新規採用となり、研究期間は**2016**年度から**2018**年度を予定している。

若手研究**(B)**については、3年間の採択件数は総計25件であり、各年度ごとに5件ずつ新規採択となっている(表6別表)。

研究活動スタート支援は1件が**2015**年に採択され、**2016**年度が最終年度となっている。

文部科学省科学研究費補助金における**2014**～**2016**年度の研究課題の解析

1. 研究年度分布

旧来の「新学術領域」で、**2010**年度に採択された「予防支援活動 **HTLV-1** 分野」は平成27年度(**2015**年度)で終了した。本年度(**2016**年度)に開始された「新学術領域」の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」は6年間の継続が予定され、最終年度は**2021**年度である。

基盤**(B)**は、本件級課題の期間中に継続と新規を合わせて10件が採択されていた。**2013**年度採択の5件のうち、2件が4年の研究期間で、3件は3年であった。**2014**年度採択の2件はいずれも3年の研究期間で、**2016**年度採択の3件のうち2件は3年間で1件は4年間であった(表3)。

基盤研究**(C)**は、本件級課題の期間中に継続と新規を合わせて65件が採択されていた。研究期間は、1年が2件(中途終了1件を含む)、2年が2件、3年が55件、4年が5件、5年が1件であった(表4)。

挑戦的萌芽研究は本研究期間中に継続1件を含めて6件採択されており、そのうち5件の研究期間は2年で1件のみが研究期間1年となっていた(表5)。

若手研究では、本研究期間で**(A)**の採択は1件であり、**2016**年度採択で研究期間は3年であった。若手研究**(B)**は継続と新規を合わせて25件の採択があり、研究期間は2年が16件、3年が7件、

4年が2件であった(表6)。

「研究活動スタート支援」は2015年に1件のみ採択され研究期間は2年であった(表6)。

採択年度の分布を見ると、基盤研究(B)では、2013年度5件、2014年2件、2015年なし、2016年2件となっていた。基盤研究(C)では、採択年度は、2011年度1件、2012年度15件、2013年度11件、2014年度11件、2015年度16件、2016年度11件となっていた。若手研究(A)は2016年度1件、若手研究(B)は2012年度3件、2013年度6件、2014~2016年度はいずれも各5件が採択されていた。

2. 領域的な分布状況

基盤研究(B)と(C)、挑戦的萌芽研究、若手研究(A)、(B)のカテゴリーで、研究分野の分布を検討してみると、以下の様な結果が明らかになった。

基盤研究(B)では10件の課題のうち、腫瘍学領域3件、血液内科学分野2件、ウイルス学分野2件、病態医化学、疫学・予防医学分野および神経内科学分野が各1件であった。

基盤研究(C)では、65件の採択課題の分野別の分布は以下の通りであった。血液内科学分野18件、瘍生物学分野6件、腫瘍治療学分野4件、発がん分野1件、神経内科分野8件、眼科学分野2件、ウイルス学分野6件、腫瘍膠原病・アレルギー内科学分野2件、疫学・予防医学分野1件、人体病理学分野2件、実験病理学分野2件、病態医化学分野2件、実験動物学分野2件、ゲノム医科学分野2件、社会学分野1件、臨床看護学分野1件、生涯発達看護学分野1件、数学一般(含確率論・統計数学)分野1件、生物系薬学1件、病態検査学1件、外科系歯学1件、眼科学1件である。

ATLの研究と考えられる課題は、「血液内科学」、瘍生物学分野、腫瘍治療学分野、発がん分野、人体病理学分野、実験病理学分野、病態医化学分野、実験動物学分野、ゲノム医科学分野に分布して採択されており、採択件数の総数は39件と全体の3分の2を超えている。一方、関連疾患としてHAMとぶどう膜炎の研究課題は、「神経内科分野」で8件あるが、「眼

科学」では2件のみとなっている。「ウイルス学分野」では6件のみであった。

挑戦的萌芽研究では、ウイルス学分野と腫瘍生物学分野が各々2件で、他は生物分子化学分野と病態医化学分野が各1件であった。

若手研究(A)と(B)では、血液内科学分野が5件、腫瘍生物学分野3件、病態検査学分野3件、病態医化学分野2件、産婦人科学分野2件、神経内科学分野2件、ウイルス学分野1件、腫瘍治療学分野1件、血液内科学/腫瘍治療学分野1件、眼科学分野1件、膠原病・アレルギー内科学分野1件、外科系歯学分野1件、応用薬理学分野1件、細胞生物学分野1件、臨床看護学1件であった。

これらの結果を見ると、HTLV-1関連疾患の代表であるATLに関わる研究(血液内科学分野と腫瘍学関連分野)が半数以上を占めていること、HAMとぶどう膜炎の研究課題の数が限られていること、母子感染予防に関わる産婦人科、およびウイルスそのものの研究と、疫学分野の研究課題が少ないことが明らかである。この実態は、臨床医学的にみた場合、課題の重要性から当然とも言えるが、研究分野の分布としては偏りがあると言わざるを得ない。今後、ウイルス学、感染症学などの立場からの基礎研究が申請され採択される事を期待する。

一方、基盤研究(C)で、看護学領域が2件、社会学の分野で1件の課題が採択されていることが注目に値する。「総合対策」に伴い、HTLV-1キャリアの方々を対象とした相談・カウンセリング業務の重要性が注目されてきたことを反映したものと考えられ時宜を得たものと考えられる。

上記が文科省科学研究費補助金の採択枠組から見た分類と集計であるが、採択件数に関しては、基盤研究を中心に一定の数が維持されていることが明らかである。ただ、本年度終了の課題が多数あることから、来年度の採択数と研究分野の分布が注目される。

3. 研究経費

従来同様に、上記の採択課題の枠組み

は、基盤研究を中心とした、個人あるいは小グループによって遂行される研究課題に限定されている。従って、研究経費は比較的小規模である。大部分の研究課題については、1名から数名の若手研究者を中心とした研究グループが限定された研究課題を遂行するのが限界であると考えられる。一方、出口志向の研究が中心となっている昨今の情勢を考慮すると、基盤研究では小規模であっても、将来展開する可能性を持つ多様なシーズを広く採択し新たな展開を可能にする配慮は重要であり、不可欠であると考えられる。

(6)「リスク告知の指針」策定を目指す検討

厚生労働省との話し合いにおいて、「発症リスク告知に関する指針」を作製する方向で準備を開始することが承認されたことを踏まえ、研究活動計画の柱2として計画を立てた。研究班発足以来、班会議などを通じて班員をはじめとした臨床家及び研究者が議論を重ねて来た。その結果、以下の様な基本的認識で一致している。つまり、リスク告知は低リスクのキャリアにとっては、不安解消などポジティブな効果を持つが、発症予防の手段がない状況では、高リスクのキャリアにとっては発症や将来の不安を掻き立てることになり非常に負担が大きい。したがって、リスク告知の種々の議論は、病態解析の研究の進展、発症予防薬開発の研究の進展状況をよく踏まえて検討すべきであり、現時点では、分担研究者と専門家の間で、研究の進捗状況に関する情報を慎重に検討すべき段階であり、非専門家をふくむ「検討委員会」の開催は、時期尚早であるとの方針が合意された。

ただ、発症予防に利用できる薬物の臨床治験も視野に入ってきていることから、適切な時期に改めて現状認識とリスク告知の社会的問題に関する議論が可能になると考えられる。

(7)「HTLV-1 対策推進協議会」と班員との情報交換：

「HTLV-1 対策推進協議会」は、年2回のペースで開催されてきた。分担研究

者の複数が協議会の委員を務めており、渡邊は座長を務めている。本研究会の班会議の席では、協議会での議論を議事録等に基づいて紹介し、情報の共有を図ると共に、議論を行った。

協議会における議論は、主に、行政側の取り組みの進捗状況と研究開発における成果と課題を明らかにする趣旨で開催されている。この席では、自治体の「母子感染対策協議会」の設置の遅れあるいは不十分な機能 に関して報告があった。研究開発に関しては、感染者の実態把握の必要性が強調された。感染予防対策の進捗状況の把握も常に行われてきたが、青壮年期における水平感染（性感染）の実態が明らかになったことは大きな成果である。今後の啓発活動のあり方や感染予防の取り組みに関する議論も行われた。

また、この協議会において「HTLV-1 総合対策」の実施状況を確認するばかりでなく、「総合対策」の継続の必要性が強く主張され、今後のあり方に関して議論を行うのが望ましいとの考えが示された。

(8) 年3回の班会議とメール会議による情報交換と議論：

2014 年度～2016 年度の研究期間中、班会議は原則として年に3回開催した。時期的には年度当初の6月頃、年度後半の12月頃、そして合同成果発表会の開催に合わせて2月の第一土曜日である。

第1回目の班会議では、当該年度の研究推進体制の確認と具体的活動内容について議論し合意した。「HTLV-1 関連疾患研究領域」の各研究班の班会議へのオブザーバー参加は、原則として、各研究事業について、年度の後半に開催される班会議へオブザーバーとして参加して、評価書を作成し、研究の進捗状況の把握を目指す方針が承認された。また、当研究計画の柱2「リスク告知の指針」策定を目指す検討については、班会議開催の度に情報交換と協議を行い、議論の進め方に関してその都度合意を形成した。

D. 考察

当グループの研究課題は、本来、独立

の研究事業として申請されたものであるが、他の政策的研究課題と統合して実施することになった経緯がある。従って、当初計画を見直して、特に取り組みが必要な部分について活動を行った。基本的な目的は、**HTLV-1** 感染症/**ATL** について、感染予防、発症予防、新規治療法開発の観点から研究推進の現状と問題点を把握して評価し、「医療行政」と「関連疾患研究」の適正な推進に向けた提言をすることである。従って、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」に含まれる研究事業の評価は必須である。また、それを可能にするためには、国内外の研究の進捗状況をリアルタイムで把握し、評価の基準とすることが求められる。

以上の立場から、国内外の研究の進展状況を把握すると共に、「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」の研究課題のみならず、厚生労働科学研究費および文部科学省科学研究費補助金において遂行されている研究課題を調査し、それらの研究課題の領域的分布、研究期間及び研究費の規模等を検討してきた。2015年度からは、**AMED** による研究費配分システムがスタートしたことに伴い、従来の厚生労働科学研究費の大部分が **AMED** の研究事業へ変更された。これらを踏まえ、情報の整理を行うことで、**AMED** および厚生労働科学研究費の各枠組での研究課題と文部科学省の科学研究費補助金による我が国における研究活動の全体像を明らかにすることができた。

国際（学術）シンポジウムの開催は、国内外の研究進捗状況の把握と評価に資するのみならず、当該分野の臨床家・研究者間の国内外の情報交換および交流の機会を提供しており、研究の活性化に大きく貢献し、有益であると判断された。

柱2の「**ATL** 発症リスク評価法開発の現状把握とリスク告知に関わる指針の作成」に関しては、専門家と関係者の議論に基づき、慎重かつ着実に進める方針で一致した。バイオマーカー探索の研究や検査法の進歩を把握し、発症予防法開発の進展を見据えながら、議論を進めるのが適切と判断した。

E. 結論

「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」の発足に伴い、**ATL** や **HTLV-1** 関連疾患の研究体制は飛躍的に強化された。昨年度からは、日本医療研究開発機構（**AMED**）の体制が本格的に適用されたために、厚生労働科学研究費は政策的課題に限定され、ほとんどの研究事業が日本医療研究開発機構の研究事業として統合された。研究課題は基本的には「出口志向」であるが、臨床研究を主としながらも付随研究の中に基礎的な研究課題を取り込む構造も工夫されたい。これは、研究計画の構造として適切であり、基礎研究者が臨床家と密接に協力しながら研究を展開することが可能な体制であり、将来的にもこの様な設計は有意義であると考えられる。ただ、今年度も研究事業数は減少傾向が続き、それに伴い、研究費の総額も昨年度比約3分の2に減額されている。

しかしながら、**AMED** の研究事業の中に厚生労働科学研究費の様に「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」をバーチャルに設定することは事実上困難であると考えられる。したがって、次年度以降の当該領域の研究開発推進の方策に関しては「**HTLV-1** 総合対策」のあり方とともに再検討に時期となっている。

本領域は、アフリカ、南米を中心として世界的な広がりを持つレトロウイルス感染症という観点からは、我が国における研究活動は、科学技術先進国としてまさに国際的な責務を負っている。一方、従来の日本の研究の蓄積から **ATL** は **T** 細胞リンパ腫の領域で最も研究の進んでいる疾患の一つとすることができる。いまだに標準治療法が無く、極めて予後の悪い **T** 細胞リンパ腫の新たな治療法開発に資するモデル疾患として我が国の研究には国際的な期待が高い。

従って、更に国際的な研究進展の現状を踏まえて、研究課題の領域的な分布とテーマの内容を戦略的に配置し、有効な研究体制を検討して提案することの重要性が改めて確認された。

「提言」

「**HTLV-1** 関連疾患研究領域」では、

HTLV-1 の自然史の理解に基づき、感染の実態把握、感染予防、病原性発現機構の理解、無症候生キャリアから ATL/HAM/HU に至る感染者の病態の全体像を明らかにして、感染予防、発症予防と新規治療薬の開発につなげることが必要である。そのために必要な条件の一つは、キャリアの 10-20% にのぼる「発症高危険群」を「慢性活動生 HTLV-1 感染症」として疾患概念を確立し、リスク評価に基づいて早期の発症予防介入を可能にすることが必須である。これらの目的を達成するには「HTLV-1 関連疾患研究領域」全体を俯瞰的に把握し、戦略的に研究開発を推進する体制を強化・維持することが不可欠である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

(査読付き)

1. Watanabe T. Adult T-cell leukemia (ATL): Molecular basis for clonal expansion and transformation of HTLV-1-infected T cells. *Blood*, 2017. pii: blood-2016-09-692574. doi: 10.1182/blood-2016-09-692574. [Epub ahead of print]
2. Farmanbar A, Firouzi S, Park SJ, Nakai K, Uchimaru K, Watanabe T. Multidisciplinary insight into clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia via modeling by deterministic finite automata coupled with high-throughput sequencing. *BMC Medical Genomics*, 2017;10(1):4. doi: 10.1186/s12920-016-0241 -2.
3. Gallo RC, Willems L, Hasegawa H; Global Virus Network's Task Force on HTLV-1: Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, Anna B, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Mahieux R, Matsuoka M, McSweeney E, Murphy EL, Péloponèse JM, Reis J, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Screening transplant donors for HTLV-1 and -2. *Blood*. 2016;128(26):3029-3031. doi: 10.1182/blood-2016-09-739433. Epub 2016 Nov 9.
4. Willems L, Hasegawa H, Accolla R, Bangham C, Bazarbachi A, Bertazzoni U, de Freitas Carneiro-Proietti AB, Cheng H, Chieco-Bianchi L, Ciminale V, Jordana G, Reis CDR, Esparza J, Gallo RC, Gessain A, Gotuzzo E, Hall W, Harford J, Hermine O, Jacobson S, Macchi B, Macpherson C, Mahieux R, Matsuoka M, Murphy E, Peloponese JM, Simon V, Tagaya Y, Taylor GP, Watanabe T, Yamano Y. Reducing the global burden of HTLV-1 infection: an agenda for research and action. *Antiviral Res* 2016. pii: S0166-3542(16)30625-8. doi: 10.1016/j.antiviral.2016.10.015.
5. Satake M, Iwanaga M, Sagara Y, Watanabe T, Okuma K, Hamaguchi I. Incidence of human T-lymphotropic virus 1 infection in adolescent and adult blood donors in Japan: a nationwide retrospective cohort analysis. *Lancet Infect Dis*. 2016;16(11):1246-1254. doi: 10.1016/S1473-3099(16)30252-3.
6. Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Yamaguchi K, Watanabe T. Aberrantly expressed oncogenic c-Myb contributes activation of MYB proto-oncogene pathway providing the basis for malignancy of Adult T cell leukemia/lymphoma cells. *Clin Cancer Res*. 2016; 22(23):5915-5928.
7. Nakano K, Watanabe T. HTLV-1 Rex Tunes the Cellular Environment Favorable for Viral Replication. *Viruses* 2016, 8(3), 58; doi:10.3390/v8030058
8. Yeh CH, Bai XT, Moles R, Ratner L, Waldmann TA, Watanabe T, Nicot C. Mutation of epigenetic regulators TET2 and MLL3 in patients with HTLV-I-induced acute adult T-cell leukemia. *Mol Cancer* 2016; 15:15 (DOI: 10.1186/s12943-016-0500-z)

9. Fujikawa D, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Yamagishi M, Watanabe T. Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia. *Blood* 2016;127(14):1790-802, doi: 10.1182/blood-2015-08-662593.
10. Aoki S, Firouzi S, Yamochi T, Nakan K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Iwanaga M, Watanabe T. Transition of ATL/L cell clones can be observed during the clinical course. *Int J Hematol* 2016;104(3):330-7. doi: 10.1007/s12185-016-2049-4.
11. Hamada T, Sugaya M, Tokura Y, Ohtsuka M, Tsuboi R, Nagatani T, Tani M, Setoyama M, Matsushita S, Kawai K, Yonekura K, Yoshida T, Saida T, Iwatsuki K. Phase I/II study of the oral retinoid X receptor agonist bexarotene in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphomas. *J Dermatol.* 2016 Aug 20. doi: 10.1111/1346-8138.13542. [Epub ahead of print]
12. Namba H, Hamada T, Iwatsuki K. Human T-cell leukemia virus type 1-positive lymphomatoid papulosis. *Eur J Dermatol.* 2016;26(2):194-5. doi: 10.1684/ejd.2015.2707
13. Hashikura Y, Umeki K, Umekita K, Nomura H, Yamamoto I, Hasegawa H, Yanagihara K, Okayama A. The diversity of the structure and genomic integration sites of HTLV-1 provirus in MT-2 cell lines. *Hum Cell.* 2016;29:122-9. doi: 10.1007/s13577-016-0136-8.
14. Hashikura Y, Umeki K, Umekita K, Nomura H, Yamada A, Yamamoto I, Hasegawa H, Yanagihara K, Okayama A. Infection of defective human T-lymphotropic virus type 1. *Hum Cell.* 2017 Jan 9. doi: 10.1007/s13577-016-0156-4. [Epub ahead of print]
15. Umeki K, Umekita K, Hashikura Y, Yamamoto I, Kubo K, Nagatomo Y, Okayama A. Evaluation of Line Immunoassay to detect HTLV-1 Infection in an Endemic Area, Southwestern Japan; Comparison with Polymerase Chain Reaction and Western Blot. *Clin Lab.* 2017 (in press)
16. Kato H, Nakazawa Y, Kurokawa Y, Kashiwagi H, Morikawa Y, Morita D, Banno F, Honda S, Kanakura Y, Tomiyama Y. Human CalDAG-GEFI deficiency increases bleeding and delays α IIb β 3 activation. *Blood* 128(23):2729-2733, Dec.2016 (doi: 10.1182/blood-2016-03-704825)
17. Ninomiya H, Obara N, Chiba S, Usuki K, Nishiwaki K, Matsumura I, Shichishima T, Okamoto S, Nishimura JI, Ohyashiki K, Nakao S, Ando K, Kanda Y, Kawaguchi T, Nakakuma H, Harada D, Akiyama H, Kinoshita T, Ozawa K, Omine M, Kanakura Y. Interim analysis of post-marketing surveillance of eculizumab for paroxysmal nocturnal hemoglobinuria in Japan. *Int J Hematol* 2016;104(5):548-558. (doi: 10.1007/s12185-016-2065-4)
18. Matsui T, Maeda T, Kida T, Fujita J, Tsuji H, Morii E, Kanakura Y. Pleuroparenchymal fibroelastosis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: important histological component of late-onset noninfectious pulmonary complication accompanied with recurrent pneumothorax. *Int J Hematol* 2016;104(4):525-530. (doi: 10.1007/s12185-016-2038-7)
19. Shimomura Y, Mitsui H, Yamashita Y, Kamae T, Kanai A, Matsui H, Ishibashi T, Tanimura A, Shibayama H, Oritani K, Kuyama J, Kanakura Y. New variant of acute promyelocytic leukemia with IRF2BP2-RARA fusion. *Cancer Sci* 2016;107(8):1165-1168. (doi: 10.1111/cas.12970)
20. Miyasaka N, Miura O, Kawaguchi T, Arima N, Morishita E, Usuki K, Morita Y, Nishiwaki K, Ninomiya H, Gotoh A, Imashuku S, Urabe A, Shichishima T, Nishimura J, Kanakura Y. Pregnancy outcomes of patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria treated with eculizumab: a Japanese experience and updated review. *Int*

- J Hematol 2016;103(6):703-712. (doi: 10.1007/s12185-016-1946-x)
21. Yoshida C, Nakamae H, Fletcher L, Koga D, Sogabe T, Matsumura I, Kanakura Y, Branford S, Naoe T. Validation of a rapid one-step high sensitivity real-time quantitative PCR system for detecting major BCR-ABL1 mRNA on an International Scale. Springerplus 2016; 5:569. (doi: 10.1186/s40064-016-2258-6)
 22. Sudo T, Yokota T, Okuzaki D, Ueda T, Ichii M, Ishibashi T, Isono T, Habuchi Y, Oritani K, Kanakura Y. Endothelial Cell-Selective Adhesion Molecule Expression in Hematopoietic Stem/Progenitor Cells Is Essential for Erythropoiesis Recovery after Bone Marrow Injury. PLoS One 2016;11(4):e0154189. (doi: 10.1371/journal.pone.0154189)
 23. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Ueda T, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y. ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. Exp Hematol 216;44(4):269-281.e1. (doi: 10.1016/j.exphem.2015.12.010)
 24. Kondo H, Soda M, Sawada N, Inoue M, Imaizumi Y, Miyazaki Y, Iwanaga M, Tanaka Y, Mizokami M, Tsugane S. Smoking is a risk factor for development of adult T-cell leukemia/lymphoma in Japanese human T-cell leukemia virus type-1 carriers. Cancer Causes Control. 2016;27(9):1059-66.(doi: 10.1007/s10552-016-0784-8.)
 25. Terao C, Yoshifuji H, Yamano Y, Kojima H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Handa H, Ohmura K, Saji H, Mimori T, Matsuda F. Genotyping of relapsing polychondritis identified novel susceptibility HLA alleles and distinct genetic characteristics from other rheumatic diseases. Rheumatology, 2016; 55(9):1686-1692. Epub: 2016 May 30. doi: 10.1093/rheumatology/kew233.
 26. Coler-Reilly ALG, Yagishita N, Suzuki H, Sato T, Araya N, Inoue E, Takata A, Yamano Y. Nation-wide epidemiological study of Japanese patients with rare viral myelopathy using novel registration system (HAM-net). Orphanet J Rare Dis 2016;11(1):69. doi: 10.1186/s13023-016-0451-x.
 27. Yamano Y, Coler-Reilly A. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+ CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. J Neuroimmunol 2016 in Press. Available online 12 August 2016. doi:10.1016/j.jneuroim. 2016.08.012
 28. Ishida T, Fujiwara H, Nosaka K, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: Multicenter phase II study of lenalidomide in relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma: ATLL-002. J Clin Oncol 2016;34:4086-93.
 29. Ogura M, Imaizumi Y, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Midorikawa S, Ohtsu T, Tobinai K: Lenalidomide in relapsed adult T-cell leukaemia-lymphoma or peripheral T-cell lymphoma (ATLL-001): a phase 1, multicentre, dose-escalation study. Lancet Haematol 2016;3:e107-18.
 30. Kitahara H, Maruyama D, Maeshima AM, Makita S, Miyamoto K, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tajima K, Terauchi T, Kurihara H, Taniguchi H, Tobinai K: Prognosis of the patients with peripheral T-cell lymphoma who underwent CHOP/CHOP-like chemotherapy without high-dose chemotherapy followed by autologous stem cell transplantation as an initial treatment. Ann Hematol. 2017;96(3):411-420. doi: 10.1007/s00277-016-2891-8.

31. Takemoto S, Watanabe T, Iwanaga M, Sagara Y. Plasma soluble CD30 as a possible marker of adult T-cell leukemia in HTLV-1 carriers: a nested case-control study. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16: 8253-8258, 2015(doi:10.7314/APJCP.2015.16.1 8.8253)
32. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Shimamura T, Yasunaga JI, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Nagae G, Ishii R, Muto S, Kotani S, Watatani Y, Takeda J, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Iwanaga M, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Ogasawara H, Sato T, Sasai K, Muramoto K, Penova M, Kawaguchi T, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Yoon SS, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Takeuchi K, Nureki O, Aburatani H, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S. Integrated molecular analysis of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Nat Genet* 2015;47: 1304-1315. (doi:10.1038/ng.3415)
33. Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci* 2015;106:598-603 (doi: 10.1111/cas.12639)
34. Ishida Y, Yukizaki C, Okayama A, Kataoka H. Glutathione As Preventive and Therapeutic Target of Adult T-Cell Leukemia /Lymphoma and Its Regulation by Carnosol, a Functional Food Ingredient. *Nova Science Publishers, Inc.* 2015; 127-144.
35. Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 53:3485-91, 2015.
36. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Ueda T, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y. ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. *Exp Hematol.* 2016;44(4):269-81.e1. doi: 10.1016/j.exphem.2015.12.010.
37. Fujita N, Ichii M, Maeda T, Saitoh N, Yokota T, Yamawaki K, Kakitani M, Tomizuka K, Oritani K, Kanakura Y. Identification of osteoblast stimulating factor 5 as a negative regulator in the B-lymphopoietic niche. *Exp Hematol.* 2015;43:963-973.e4.
38. Nakamae H, Yoshida C, Miyata Y, Hidaka M, Uike N, Koga D, Sogabe T, Matsumura I, Kanakura Y, Naoe T. A new diagnostic kit, ODK-1201, for the quantitation of low major BCR-ABL mRNA level in chronic myeloid leukemia: correlation of quantitation with major BCR-ABL mRNA kits. *Int J Hematol.* 2015;102:304-311.
39. Yokota T, Oritani K, Sudo T, Ishibashi T, Doi Y, Habuchi Y, Ichii M, Fukushima K, Okuzaki D, Tomizuka K, Yamawaki K, Kakitani M, Shimono A, Morii E, Kincade PW, Kanakura Y. Estrogen-inducible sFRP5 inhibits early B-lymphopoiesis in vivo, but not during pregnancy. *Eur J Immunol.* 2015;45:1390-1401.
40. Sata H, Shibayama H, Maeda I, Habuchi Y, Nakatani E, Fukushima K, Fujita J, Ezoe S, Tadokoro S, Maeda T, Mizuki M,

- Kosugi S, Nakagawa M, Ueda S, Iida M, Tokumine Y, Azenishi Y, Mitsui H, Oritani K, Kanakura Y. Quantitative polymerase chain reaction analysis with allele-specific oligonucleotide primers for individual IgH VDJ regions to evaluate tumor burden in myeloma patients. *Exp Hematol* 2015;43:374-381.e2.
41. Ogura M, Imaizumi Y, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Midorikawa S, Ohtsu T, Tobinai K: Phase I multicenter, open-label, dose-escalation study of lenalidomide in patients with advanced adult T-cell leukemia/lymphoma or peripheral T-cell lymphoma. *Lancet Hematol*. 2016;3(3): e107-18. doi: 10.1016/S2352-3026(15)00284-7.
 42. Ishida T, Joh T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol* 2015;169:672-682.
 43. Katsuya H, Ishitsuka K, Utsunomiya A, Hanada S, Eto T, Moriuchi Y, Saburi Y, Miyahara M, Sueoka E, Uike N, Yoshida S, Yamashita K, Tsukasaki K, Suzushima H, Ohno Y, Matsuoka H, Jo T, Amano M, Hino R, Shimokawa M, Kawai K, Suzumiya J, Tamura K: Treatment and survival among 1594 patients with ATL diagnosed in the 2000s: a report from the ATL-PI project performed in Japan. *Blood* 2015;126:2570-2577.
 44. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Suguro M, Miyoshi H, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: STX11 functions as a novel tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. *Cancer Sci* 2015;106:1455-1462.
 45. Yoshida N, Imaizumi Y, Utsunomiya A, Miyoshi H, Arakawa F, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M: Mutation Analysis for TP53 in Chronic-Type Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. *J Clin Exp Hematol* 2015;55:13-16.
 46. Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Mogamulizumab, an anti-CCR4 antibody, targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. *J Infect Dis*, 2015;211(2):238-248.
 47. Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T-cell leukemia virus-1 associated myelopathy. *Ann Clin Transl Neurol* 2015;2:231-240.
 48. Martin F, Inoue E, Cortese ICM, de Almeida Kruschewsky R, Adonis A, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Jacobson S, Yamano Y, Taylor GP, Bland M. Timed walk as primary outcome measure of treatment response in clinical trials for HTLV-1-associated myelopathy: a feasibility study. *Pilot Feasibility Stud*. 2015;1:35. eCollection 2015.
 49. Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol* 2016;22(4):416-30. doi: 10.1007/s13365-015-0407-2.
 50. Kobayashi S, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Nakano K, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. Advanced HTLV-1 carriers and early-stage indolent ATLs are indistinguishable based on

- CADM1 positivity in flow cytometry. *Cancer Sci* 2015;106(5):598-603. doi: 10.1111/cas.12639.
51. Kuramitsu M, Okuma K, Yamagishi M, Yamochi T, Firouzi S, Momose H, Mizukami T, Takizawa K, Araki K, Sugamura K, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Identification of TL-Om1, an ATL Cell Line, as a Reference Material for Human T-Lymphotropic Virus 1 Quantitative PCR. *J Clin Microbiol* 2015;53(2):587-596. (doi: 10.1128/JCM.02254-14)
 52. Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Tojo A, Uchimaru K. A case of post-transplant adult T-cell leukemia/lymphoma presenting myelopathy similar to but distinct from human T-cell leukemia virus type I (HTLV- I)-associated myelopathy. Springerplus. 2014;3:581. doi: 10.1186/2193-1801-3-581. eCollection 2014
 53. Ishigaki T, Zaike Y, Nojima M, Kobayashi S, Ohno N, Uchimaru K, Tojo A, Nakauchi H, Watanabe N. Quantification of adult T-cell leukemia/lymphoma cells using simple four-color flow cytometry. *Clin Chem Lab Med*. 2015;53(1):85-93. doi: 10.1515/cclm-2014-0183
 54. Ishida T, Joh T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive ATL: a randomized phase 2 study. *Br J Haematol* 2015;169 (5):672-82. doi: 10.1111/bjh.13338.
 55. Takahashi R; Yamagishi M, Nakano K, Yamochi T, Yamochi T, Fujikawa D, Nakashima M, Tanaka Y, Uchimaru K, Utsunomiya A, Watanabe T. Epigenetic deregulation of Ellis Van Creveld confers robust Hedgehog signaling in adult T-cell leukemia. *Cancer Sci* 105(9):1160-1169, Sep. 2014 (doi: 10.1111/cas.12480)
 56. Firouzi S, López Y, Suzuki Y, Nakai K, Sugano S, Yamochi T, Watanabe T. Development and validation of a new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites. *Genome Med* 2014;6(6):46. (doi:10.1186/gm568)
 57. Kobayashi S, Nakano K, Watanabe E, Ishigaki T, Ohno N, Yuji K, Oyaizu N, Asanuma S, Yamagishi M, Yamochi T, Watanabe N, Tojo A, Watanabe T, Uchimaru K. CADM1 expression and stepwise downregulation of CD7 are closely associated with clonal expansion of HTLV-1-infected cells in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Clin Cancer Res* 2014;20(11):2851-2861. (DOI: 10.1158/1078-0432.CCR-13-3169)
 58. Wada H, Isobe M, Kakimi K, Mizote Y, Eikawa S, Sato E, Takigawa N, Kiura K, Tsuji K, Iwatsuki K, Yamasaki M, Miyata H, Matsushita H, Udono H, Seto Y, Yamada K, Nishikawa H, Pan L, Venhaus R, Oka M, Doki Y, Nakayama E. Vaccination with NY-ESO-1 overlapping peptides mixed with Picibanil OK-432 and montanide ISA-51 in patients with cancers expressing the NY-ESO-1 antigen. *J Immunother* 2014; 37: 84-92.
 59. Tada K, Hamada T, Asagoe K, Umemura H, Mizuno-Ikeda K, Aoyama Y, Otsuka M, Yamasaki O, Iwatsuki K. Increase of DC-LAMP+ mature dendritic cell subsets in dermatopathic lymphadenitis of mycosis fungoides. *Eur J Dermatol* 2014;24: 670-675
 60. Umekita K, Hidaka T, Miyauchi S, Ueno S, Kubo K, Takajo I, Hashiba Y, Kai Y, Nagatomo Y, Okayama A. Treatment with anti-tumor necrosis factor biologicals agents in

- human T-lymphotropic virus type 1 positive patients with rheumatoid arthritis. *Arthritis Care Res.* 2014;66:788-92. doi: 10.1002/acr.22205.
61. Rai S, Tanaka H, Suzuki M, Ogoh H, Taniguchi Y, Morita Y, Shimada T, Tanimura A, Matsui K, Yokota T, Oritani K, Tanabe K, Watanabe T, Kanakura Y, Matsumura I. Clathrin assembly protein CALM plays a critical role in KIT signaling by regulating its cellular transport from early to late endosomes in hematopoietic cells. *PLoS One.* 2014;9(10):e109441.
 62. Ichii M, Oritani K, Kanakura Y. Early B lymphocyte development: Similarities and differences in human and mouse. *World J Stem Cells.* 2014;6(4):421-31.
 63. Yokota T, Kanakura Y. Role of tissue-specific AT-rich DNA sequence-binding proteins in lymphocyte differentiation. *Int J Hematol.* 2014;100(3): 238-45.
 64. Fujita N, Oritani K, Ichii M, Yokota T, Saitoh N, Okuzaki D, Sekine Y, Kon S, Muromoto R, Saitoh K, Yoshimura A, Matsuda T, Kanakura Y. Signal-transducing adaptor protein-2 regulates macrophage migration into inflammatory sites during dextran sodium sulfate induced colitis. *Eur J Immunol.* 2014;44(6):1791-801.
 65. Tanimura A, Shibayama H, Hamanaka Y, Fujita N, Ishibashi T, Sudo T, Yokota T, Ezoe S, Tanaka H, Matsumura I, Oritani K, Kanakura Y. The anti-apoptotic gene Anamorsin is essential for both autonomous and extrinsic regulation of murine fetal liver hematopoiesis. *Exp Hematol.* 2014;42(5): 410-422.e4.
 66. Yamaguchi M, Takata K, Yoshino T, Ishizuka N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Kubota N, Itoh K, Usui N, Miyazaki K, Wasada I, Nakamura S, Matsuno Y, Oshimi K, Kinoshita T, Tsukasaki K, Tobinai K on behalf of the Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group: Prognostic value of LMP1 and T-cell origin in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with concurrent chemoradiotherapy. *Cancer Sci* 2014;105:1435-1441.
 67. Fukushima T, Nomura S, Shimoyama M, Moriuchi Y, Shibata T, Utsunomiya A, Tamura K, Ishitsuka K, Yoshida S, Uike N, Nosaka K, Hidaka M, Fukushima N, Uozumi K, Masuda M, Yamada Y, Kaba H, Watanabe Y, Fukuda H, Hotta T, Tobinai K, Tsukasaki K: The Japan Clinical Oncology Group (JCOG) prognostic index and characterization of long-term survivors of aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma (JCOG0902A). *Br J Haematol* 2014; 166:739-748.
 68. Ogura M, Ishida T, Ando K, Tobinai K, Uike N, Tanimoto M, Tsukasaki K, Ishizawa K, Suzumiya J, Inagaki H, Tamura K, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R: Multicenter phase II study of mogamulizumab (KW-0761), a defucosylated anti-CCR4 antibody, in patients with relapsed peripheral T-cell lymphoma and cutaneous T-cell lymphoma. *J Clin Oncol* 2014;32: 1157-1163.
 69. Tsukasaki K, Tobinai K: Human T-cell leukemia virus type I-associated adult T-cell leukemia-lymphoma: new directions in clinical research. *Clin Cancer Res* 2014; 20(20):5217-5225.
 70. O'Connor OA, Tobinai K: Putting the clinical and biological heterogeneity of non-Hodgkin's lymphoma into context. *Clin Cancer Res* 2014;20:5173-81.
 71. Makiyama J, Imaizumi Y, Tsushima H, Taniguchi H, Moriwaki Y, Sawayama Y, Imanishi D, Taniguchi J, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y. Treatment outcome elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma: Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 2014; 100:464-472.
 72. Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K,

- Suguro M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, Seto M. Molecular Characterization of Chronic-type Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. *Cancer Res* 2014;74(21):6129-6138.
73. Taniguchi H, Hasegawa H, Sasaki D, Ando K, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Imaizumi Y, Hata T, Tsukasaki K, Uno N, Morinaga Y, Yanagihara K, Miyazaki Y. Heat shock protein 90 inhibitor NVP-AUY922 exerts potent activity against adult T-cell leukemia-lymphoma cells. *Cancer Sci* 2014;105(12):1601-1608.
74. Makiyama J, Imaizumi Y, Tsushima H, Taniguchi H, Moriwaki Y, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y. Treatment outcome of elderly patients with aggressive adult T cell leukemia-lymphoma: Nagasaki University Hospital experience. *Int J Hematol* 2014; 100(5):464-472.
75. Araya N, Sato T, Ando H, Tomaru U, Yoshida M, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Nakajima T, Nishioka K, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HLVL-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells. *J Clin Invest* 2014;124(8):3431-3442.
76. Suzuki N, Shimizu J, Oka H, Yamano Y, Yudoh K. Neurological involvement of relapsing polychondritis in Japan: An epidemiological study. *Inflam Regen* 2014; 34(4):206-208.
77. Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T cell leukemia virus-1 associated. *Ann Clin Transl Neurol*. 2015;2(3):231-40. doi: 10.1002/acn3.169.
78. Coler-Reilly A, Ando H, Yamano Y. Positive feedback loop via astrocytes causes chronic inflammation in human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *Clin Exp Neuroimmunol* 2014; 5:108-109.
79. Ishitsuka K, Tamura K. Human T-cell leukaemia virus type I and adult T-cell leukaemia-lymphoma. *Lancet Oncol*. 2014;15(11):e517-e526.
80. Kunami N, Katsuya H, Nogami R, Ishitsuka K, Tamura K. Promise of combining a Bcl-2 family inhibitor with bortezomib or SAHA for adult T-cell leukemia/lymphoma. *Anticancer Res*. 2014;34(10):5287-5294.
- (総説)
1. 齋藤 滋 : 妊娠・分娩・産褥時の対応 ⑥HTLV-1. 周産期医学, in press
 2. 齋藤 滋 : HTLV-1キャリア. 周産期医学. 2016;46:1255-1258.
 3. Younes A, Ansell S, Fowler N, Wilson W, de Vos S, Seymour J, Advani R, Forero A, Morschhauser F, Kersten MJ, Tobinai K, Zinzani PL, Zucca E, Abramson J, Vose J: The landscape of new drugs in lymphoma. *Nat Rev Clin Oncol*, 2016: 29 December 2016 | doi:10.1038/nrclinonc.2016.205.
 4. Makita S, Tobinai K: Clinical features and current optimal management of NK/T-cell lymphoma. *Hematol/Oncol Clin North Am*, Published online: January 30, 2017.
 5. 岩月啓氏、「皮膚T細胞リンパ腫研究 菌状息肉症とSézary症候群のバイオマーカーを読み解く」, 細胞, 48(6): 272-276, 2016年6月
 6. 岩月啓氏、「皮膚T細胞リンパ腫研究 総論 皮膚とTリンパ球サブセットと腫瘍化」, 細胞, 48(6): 262-263, 2016年6月
 7. 岡山昭彦, 梅北邦彦. HTLV-1感染と関節リウマチ. *臨床免疫・アレルギー科*. 2016; 66: 428-433
 8. 岩永正子、【特集：成人T細胞白血病（ATL）研究の現状】1. HTLV-1感染症の疫学とコホート研究. *血液フロンティア* 26(4): 21-28, 2016
 9. 岩永正子、【生涯教育シリーズ】HTLV-1感染症. *長崎市医師会報* 592(6): 30-36, 2016
 10. 山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. *臨床評*

- 価, **43(2):418-421, 2016.**
11. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症の病態に基づいた疾患修飾薬の開発. **Modern Physician, 36(7):682-687, 2016年7月.**
 12. 新谷奈津美, 佐藤知雄, アリエラ・コラライリー, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の分子病態解明による治療薬開発の新展開. **Jpn J Clin Immunol, 39(3):207-212, 2016.**
 13. 山野嘉久, 齋藤 滋. HTLV-1. 産科と婦人科, **83(9): 1021-1026, 2016. (2016年9月1日発行)**
 14. 石塚賢治【造血管腫瘍のゲノム/エピゲノム解析研究と免疫/分子標的療法の進歩】成人 T 細胞白血病・リンパ腫におけるゲノム解析と免疫/分子標的療法、血液内科 **73 巻 5 号, 612-616, 2016**
 15. 石塚賢治【低悪性度血液腫瘍に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準】くすぶり型・慢性型成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する無治療経過観察と合理的な治療介入基準、血液内科 **73 巻 1 号, 46-51, 2016**
 16. 濱田利久, 岩月啓氏, 日本皮膚 悪性腫瘍学会 皮膚がん予後統計委員会 「皮膚リンパ腫 全国症例数調査の結果 2014」日本皮膚悪性腫瘍学会 HP、皮膚がん予後統計報告、皮膚リンパ腫
 17. 飛内賢正: HTLV-1 と ATL. / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma. シンポジウム2. ウイルス感染と腫瘍。日本内科学会雑誌 2015;104:1872-7**
 18. 塚崎邦弘: [リンパ腫の治療, 各論成人 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL)] リンパ腫学-最新の研究動向, 日本臨牀 **73(8):522-528, 2015. 2015年10月**
 19. **Bangham C, Araujo A, Yamano Y & Taylor G. HTLV-I-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. Nat Rev Disease Primers, 1, 2015.**
 20. **Yamano Y. How does human T-lymphotropic virus type 1 cause central nervous system disease? The importance of cross-talk between infected T cells and astrocytes. Clin Exp Neuroimmunol, 6: 395-401, 2015.**
 21. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) - 分子病態解明による治療薬開発の新展開. 医学のあゆみ, **255:485-490, 2015.**
 22. 石塚賢治, 山野嘉久, 宇都宮 與, 内丸 薫. HTLV-1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液, **56:666-672, 2015.**
 23. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 力石辰也, 山野嘉久, 柴垣有吾. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 日本透析医学会雑誌, **48(1):483, 2015.**
 24. 山野嘉久, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄. 免疫性神経疾患 - 基礎・臨床研究の最新知見 -. 日本臨牀, **73(7): 546-553, 2015.**
 25. 齋藤 滋. 妊産婦診療における HTLV-1 キャリア検出のための診断の進め方とキャリア妊婦支援の必要性. 日産婦医会報. **2015;67:10-11.**
 26. 齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」 HTLV-1 母子感染対策協議会の役割と運営. 日本周産期・新生児医学会雑誌. **2015; 51: 79-82.**
 27. 板橋家頭夫, 齋藤 滋. シンポジウム 7 「HTLV-1 母子感染予防」座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌. **2015; 51: 69.**
 28. 齋藤 滋. 母子感染予防に関する最新事情—特に HTLV-1、CMV に関して— **ABBOT NEWS. 2015.7.17.**
 29. 齋藤 滋. HTLV-1 母子感染予防事業の意義. キャリねっとコラム. **2015.12.3**
 30. 渡邊俊樹, III 章. 主要な感染症 (原因微生物毎) **J. RNA ウイルス感染症 「ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型感染症 (Human T-cell leukemia virus type Infection)」**、日本医師会雑誌 『感染症診療 update』 **143 巻・特別号 (2): 394-397, 2014年10月15日**
 31. 渡邊俊樹, 特集 **マイクロ RNA と血液疾患 「マイクロ RNA 発現異常と HTLV-1 による成人 T 細胞白血病 (ATL) 発症」**、血液内科、**68(6): 781-785, 2014年6月**
 32. 岡山昭彦. HTLV-1 感染と自己免疫疾患における **clinical questions**. 臨床免疫・アレルギー科. **2014; 62(6):686 - 691.**
 33. 内丸 薫 わが国における HTLV-1 キャリアと ATL 患者に対する相談機能と知識の普及 血液内科 **68(1); 58-64, 2014**
 34. 内丸 薫 成人 T 細胞白血病 (ATL) 検査と技術 **42; 1370-1375, 2014**

35. 内丸 薫 成人T細胞白血病 **medicina 52(4) in press**
36. 石田高司,伊藤 旭,戸倉新樹,田中淳司,鷗池直邦,飛内賢正,塚崎邦弘:[血液内科医・皮膚科医のための統合ATL診療ガイドライン解説書2014]臨床血液**55(11):2257-2261,2014.**
37. 北野滋久,塚崎邦弘:[免疫療法の逆襲を現実化した免疫check pointの修飾] Tregによる免疫反応の制御とimmune checkpointによる免疫修飾の違い. 血液内科**14(5):469-474,2014.**
38. 塚崎邦弘:[プロからプロへ:臨床各科の一線医師同士が日常診療の疑問点を検証]初発進行性濾胞性リンパ腫の治療方針. 日本医事新報**4725:54-55,2014.**
39. 塚崎邦弘:[血液腫瘍に対する臨床試験のinfrastructure-現状の問題点と今後の方向性]リンパ系腫瘍患者に対するJCOGリンパ腫グループによる研究:過去,現在,将来.血液内科**69(1):26-37,2014.**
40. 上田裕二郎,塚崎邦弘:慢性リンパ性白血病の新たな治療戦略について. 血液内科**68(5):650-656,2014.**
41. 根津雅彦,塚崎邦弘:[内科疾患 最新の治療 明日への指針]第9章 血液成人T細胞白血病・リンパ腫.内科**113(6):1508-1509,2014.**
42. 加藤知爾,矢野友規,桑田 健,塚崎邦弘:[消化管悪性リンパ腫2014]消化管原発 aggressive lymphoma-diffuse large B-cell lymphoma.胃DLBCLの診断と治療(臨床試験に基づく治療).胃と腸**49(5):720-728,2014.**
43. 湯浅博美,塚崎邦弘:治療関連急性前骨髄球性白血病の臨床的特徴と治療.血液内科**68(4):505-509,2014.**
44. 塚崎邦弘:[抗体によるがん分子標的治療]臓器別がんに対する抗体療法.白血病に対する抗体療法.最新醫學**69(3):69-75,2014.**
45. 塚崎邦弘:[リンパ腫-検査・診断と治療の最新動向-] .リンパ腫の治療.成人T細胞白血病・リンパ腫.日本臨牀**72(3):531-537,2014.**
46. 塚崎邦弘:[最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見-] .臓器別がんの薬物療法.慢性骨髄性白血病.日本臨牀**72(2):440-447,2014.**
47. 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 神経症候群 (第2版), **30 : 153-156, 2014.**
48. 山野嘉久. HTLV-1の神経障害. 内科,**113(6):1431, 2014.**
49. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症 (HAM) の分子病態に基づく治療戦略. 細胞,**46(6):258-261, 2014.**
50. 山野嘉久. ヒト細胞白血病ウイルス型関連脊髄症. 神経関連感染症最新医学 別冊,**200-205, 2014.**
51. 新谷奈津美, 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症 (HAM) に対する分子標的治療薬開発の現状と将来. 血液内科,**68 (1) 30-35, 2014.**
52. 山野嘉久. 希少な慢性進行性の神経難病HAMにおける治療有効性評価モデルの探索. 臨床評価 別冊,**41(3):504-508, 2014.**
53. 森内浩幸. 特集 母乳をめぐる諸問題 母乳とヒトT細胞白血病ウイルス型 (HTLV-1) 感染. 東京小児科医会報 **32(3):14-19, 2014.**
54. 森内浩幸. 特集 母乳をめぐる諸問題 母乳とヒトT細胞白血病ウイルス型 (HTLV-1) 感染. 東京小児科医会報 **32(3):14-19, 2014.**
55. 森内昌子, 森内浩幸. .感染症-47 HTLV-I感染症. 小児内科 **46(増刊号): 418-424, 2014.**
56. 齋藤 滋. 産科医、小児科医、助産師、保健師でサポートするHTLV-1母子感染対策. 第40回日本産婦人科医会学術集会記念誌. **34-35, 2014.**
57. 齋藤 滋. HTLV-1 - その発見から母子感染対策事業となるまで -. 日本産科婦人科学会雑誌. **66(4): 1155-1161, 2014.**
58. 齋藤 滋. 特集 HTLV-1と母乳育児「HTLV-1 抗体検査の理解」. 助産雑誌. **68(1): 17-21, 2014.**
59. 齋藤 滋. 日本産婦人科医会学術集会特集号 産科医、小児科医、助産師、保健師でサポートするHTLV-1母子感染対策. 日本産婦人科医会報. **66(2): 10-11 , 2014.**
- (著書)
1. 齋藤 滋、HTLV-I.「改訂第2版 症例から学ぶ周産期診療ワークブック」日本周産期・新生児学会編,メジカルビュー社,東京,**P214-216, 2016.**
2. 岩月啓氏、濱田利久、「菌状息肉症・Sézary症候群」造血管腫瘍アトラス、谷脇雅史・横田昇平・黒田純也編、日本医事新報社、**616-622, 2016年8月**
2. 学会発表 (国際学会)

1. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, “Development and molecular analysis of synthetic lethality by targeting EZH1 and EZH2 in T cell lymphomas”, 9th Annual T-Cell Lymphoma Forum, The Fairmont Hotel, San Francisco, CA, U.S.A., Jan. 28(Jan. 26-28, 2017) (Oral)
2. Yamagishi M, Hori M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Ohsugi T, Nakano K, Nakashima M, Kobayashi S, Iwanaga M, Utsunomiya A, Okada S, Tsukasaki K, Tobinai K, Araki K, Watanabe T, Uchimaru K, “Development and Molecular Analysis of Synthetic Lethality By Targeting EZH1 and EZH2 in Non-Hodgkin Lymphomas”, the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Oral & Poster) (2016 ASH Abstract Achievement Award)
3. Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ito S, Kenji Ishitsuka, Atae Utsunomiya, Yoshiki Tokura, Takeaki Tomoyose, Kazuya Shimoda, Kensei Tobinai, Toshiki Watanabe, Uchimaru K, Tsukasaki K “Treatment and Prognosis in Patients with Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma (ATL): A Nationwide Survey in Japan” the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A (Dec. 3-6, 2016) Abstract presentation, 5936, Blood 128 (22): 2016
4. Daisuke Nakamura, Makoto Yoshimitsu, Tomohisa Tabuchi, Naosuke Arima, Maiko Hayashida, Hirose Inoue, Kakushi Matsushita, Tadaishi Matsumoto, Naomichi Arima and Kenji Ishitsuka “OPEC/Mpec for Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma: A Single-Institution Study.” Blood 2016 128:1828; the 58th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego Convention Center, San Diego, CA, U.S.A., Dec. 4, 2016(Dec. 3-6, 2016) (Poster)
5. Yamano Y. Viruses in neuroimmunological disorders. 13th International Congress of Neuroimmunology (ISNI 2016), 26-29 September 2016, Jerusalem, Israel.
6. Watanabe T, “Polycomb-dependent epigenetic landscape in ATL: proof of concept for targeting EZH1/2”, Malignant Lymphoma Academy 2016, Sehraton Miyako Hotel Tokyo, Tokyo, Aug. 6, 2016(Aug. 6-7, 2016) Invited
7. Iwatsuki K, “Lymphomas in Asia: Virus-related lymphomas”, 10th Asian Dermatological Congress, Sahara Star International Convention Centre, Mumbai, India, Oct. 14, 2016 (Oct. 13-16, 2016) (Oral)
8. Iwatsuki K, Yamaguchi M, Hamada T, Sugaya M, Miura M, Ohshima K, Morishita K, “Cell adhesion molecule 1 is a biomarker for leukemic cells in progressive or refractory Sézary syndrome”, 3rd World Congress of Cutaneous Lymphomas, Columbia University, NY, U.S.A. Oct. 27, 2016 (Oct. 26-28, 2016) (Oral & Poster)
9. Hamanaka Y, Shibayama H, Tanimura A, Yokota T, Ezoe S, Ichii M, Ishibashi T, Doi Y, Nagate Y, Oritani K, Kanakura Y, “Anamorsin is essential for B-cell terminal differentiation”, 21st Congress of the European Hematology Association, Bella Center, Copenhagen, Denmark, Jun.11, 2016(Jun.9-12, 2016)(Poster)
10. Shibayama H, Kawaguchi T, Kuroda J, Nakamae H, Matsumura I, Miyamoto T, Ishikawa J, Kamimura T, Fukushima K, Imamura Y, Eto T, Sunami K, Shimokawa M, Akashi K, Kanakura Y, “Safety and Efficacy of a Switch to Nilotinib in Patients with CML-CP Showing MMR to Imatinib: Results of a Multicenter Phase II Trial (NILSw Trial) ”, The American Society of Hematology 58th Annual Meeting,

- San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.3, 2016 (Dec.3-6, 2016)(Poster)
11. Doi Y, Yokota T, Satoh Y, Ueda T, Shingai Y, Ichii M, Tanimura A, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kohwi-Shigematsu T, Kanakura Y, “SATB1 Expression Helps in Identification of the Lymphoid-Lineage-Biased Trajectory of Functionally Fluctuating Hematopoietic Stem Cells”, The American Society of Hematology 58th Annual Meeting, San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.4, 2016 (Dec.3-6, 2016)(Oral)
 12. Ueda T, Yokota T, Shingai Y, Doi Y, Ishibashi T, Sudo T, Nagate Y, Tanimura A, Tokunaga M, Fujita J, Ichii M, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y, “Endothelial Cell-Selective Adhesion Molecule (ESAM) Is Required for the Ontogeny of Definitive Hematopoietic System in Mice”, The American Society of Hematology 58th Annual Meeting, San Diego convention center, San Diego, CA, U.S.A., Dec.5, 2016 (Dec.3-6, 2016) (Poster)
 13. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga JI, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ken Ishiyama, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S, “Prognostic Impact of Integrated Genomic Genetic Profiling in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma” EHA 2016 (21st European Hematology Association Congress), Copenhagen, Denmark, Jun 9-12, 2016. (Poster Presentation EHA21, June 11, 2016)
 14. Yamagishi M, Fujikawa D, Ohsugi T, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T, “Polycomb-dependent epigenetic landscape in adult T cell leukemia (ATL); providing proof of concept for targeting EZH1/2 to selectively eliminate the HTLV-1 infected population”, T-cell Lymphoma Forum 2016, San Francisco, CA, U.S.A., Jan. 29, 2016(Jan. 28-30, 2016) (Oral)
 15. Tobinai K: New agents in Japan. Oral Presentation. T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2016.
 16. Nosaka K, Fujiwara H, Ishida T, Taira N, Abe Y, Imaizumi Y, Moriuchi Y, Jo T, Ishizawa K, Tobinai K, Tsukasaki K, Ito S, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ogura M, Midorikawa S, Ruiz W, Ohtsu T: A phase II multicenter study of lenalidomide in patients with relapsed or recurrent adult T-cell leukemia-lymphoma (ATLL-002). Oral and Poster Session, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, 2016.
 17. Yamagishi M, Fujikawa D, Honma D, Adachi N, Nakagawa S, Hori M, Kurokawa N, Soejima A, Nakano K, Yamochi T, Nakashima M, Kobayashi S, Tanaka Y, Iwanaga M, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tsukasaki K, Araki K, Watanabe T, “Polycomb-Dependent Epigenetic Landscape in Adult T Cell Leukemia (ATL); Providing Proof of Concept for Targeting EZH1/2 to Selectively Eliminate the HTLV-1 Infected Population”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 7, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Oral) ASH Abstract Achievement Award
 18. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Yasunaga J, Iwanaga M, Shiraishi Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K,

- Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Shibata T, Miyano S, Matsuoka M, Shimoda K, Watanabe T, Ogawa S, “Prognostic Relevance of Integrated Genetic Profiling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 6, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Poster)
19. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Yasunaga J, Totoki Y, Chiba K, Sato-Otsubo A, Kotani S, Sanada M, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Ma G, Nosaka K, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Ishiyama K, Miyawaki S, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Watanabe T, Shibata T, Matsuoka M, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S, “Frequent Activating Somatic Alterations in T-Cell Receptor / NF-kb Signaling in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 5, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Oral)
20. Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Shiraishi Y, Totoki Y, Yasunaga J, Chiba K, Sato-Otsubo A, Sanada M, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, Hishizawa M, Itonaga H, Imaizumi Y, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Nakamaki T, Tobinai K, Miyazaki Y, Takaori-Kondo A, Matsuoka M, Shibata T, Miyano S, Shimoda K, Ogawa S: Next-generation sequencing reveal proviral genome and transcriptome in adult T-cell leukemia/lymphoma. Poster Presentation, Abstract #882, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, 2015.
21. Yamagishi M, Katano H, Hishima T, Ota Y, Okada S, Watanabe T, “Epigenetically Programmed Defenseless Signaling in Malignant Lymphoma”, the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec. 5, 2015(Dec. 5-8, 2015) (Poster)
22. Fujikawa D, Yamagishi M, Nakagawa S, Kurokawa N, Soejima A, Kobayashi S, Uchimaru K, Tanaka Y, Nakano K, Watanabe T, “EZH2-dependent epigenetic landscape in adult T-cell leukemia and Tax-immortalized cells”, 17th International Conference on Human Retrovirology HTLV & Related Viruses, the Carayou Hotel, Martinique, France, June 19, 2015 (June 18-22, 2015) (Oral)
23. Namba H, Hamada T, Iwatsuki K. Human T-cell leukemia virus type 1-positive lymphomatoid papulosis. Eur J Dermatol 2016; Epub ahead of print.
24. Umekita K, Miyauchi S, Kubo K, Umeki K, Nomura H, Mao Komura M, Iwao K, Takajo I, Nagatomo Y, Toshihiko Hidaka T, Okayama A. IL-6 May Have an Important Role in the Resistance to Anti-TNF Therapies of Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) Positive Rheumatoid Arthritis (RA) Patients; HTLV-1 Infected Cells Activate the Inflammatory Responses of RA Synovial Fibroblasts. 2015 ACR/ARHP Annual Meeting. ACR Poster Session A 544. 2015. (November 6–11(8 presentation), Moscone Center, San Francisco)
25. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: ESAM is a novel human hematopoietic stem cell marker associated with a subset of human leukemias. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition, Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
26. Doi Y, Yokota T, Ishibashi T, Satoh Y, Ichii M, Tanimura A, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: SATB1 expression marks lymphoid-lineage-biased hemato- poietic stem cells in

- mouse bone marrow. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
27. Ishibashi T, Yokota T, Tanaka H, Ichii M, Sudo T, Satoh Y, Doi Y, Tanimura A, Hamanaka Y, Ezoe S, Shibayama H, Oritani K, Kanakura Y: SATB1 expression marks lymphoid-lineage-biased hematopoietic stem cells in mouse bone marrow. Poster Presentation. the 57th ASH Annual Meeting and Exposition Orlando, FL, U.S.A., Dec 5-8, 2015
 28. Katsuya H, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo T, Tsukasaki K, Shizumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering type adult T-cell leukemia/lymphoma. The 77th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology, Ishikawa, Japan, October 16-18, 2015 (Oral Session77)
 29. Hiroo, K, Shimokawa M, Ishitsuka K, Kawai K, Amano M, Utsunomiya A, Hino R, Hanada S, Jo T, Tsukasaki K, Moriuchi Y, Sueoka E, Yoshida S, Suzushima H, Miyahara M, Yamashita K, Eto T, Yamanaka T, Suzumiya J, Tamura K. Prognostic index for chronic and smoldering types adult T-cell leukemia/lymphoma. 2015 ASCO Annual Meeting, Chicago, Illinois, U.S.A., May.29-June.2, 2015.(ポスター)
 30. Yamano Y. HTLV-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells that produces an inflammatory positive feedback loop via astrocytes in HAM/TSP. 40Years of Neuroimmunology, 19-20 April 2015, Bethesda, Maryland, USA.
 31. Yamano Y, Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Akiyama H, Hasegawa Y, Utsunomiya A. Humanized anti-CCR4 antibody KW0761 targets HTLV-1-infected CD4+CCR4+ and CD8+CCR4+ T-cells to treat HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 32. Araya N, Sato T, Tomaru U, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Akiyama H, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y. HTLV-1 Tax induces Th1 master regulator T-bet and thus IFN- γ in CD4+CCR4+ T-cells of virus-associated myelopathy patients. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 33. Coler-Reilly A, Yagishita N, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Yamano Y, Takata A. HAM-net national patient registration system reveals details of how Japanese patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis progress over time. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 34. Kimura M, Yamauchi J, Taisho H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Sato K, Kikuchi T, Hasegawa Y, Chikaraishi T, Shibagaki Y, Yamano Y. Characteristics of HAM/TSP after kidney transplantation from HTLV-1 positive living donors. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI).[Carayou Hotel]
 35. Sato K, Kikuchi T, Kimura M, Komita M, Shimada K, Seki K, Tachibana M, Yagishita N, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Takata A, Yamano Y. Patient Satisfaction Survey for HAM-net Registrants. 17th International Conference on

- Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]**
36. **Kikuchi T, Sawabe A, Negishi Y, Noda A, Hirai Y, Inoue E, Kimura M, Sato K, Araya N, Yagishita N, Sato T, Yamano Y. Evaluation of clinical outcome measures for HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies (FWI)**
 37. **Yamano Y. How does HTLV-1 cause CNS disease? - The importance of cross-talk between infected T-cells and astrocytes. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting [APSNI](第一回アジア太平洋神経免疫学国際シンポジウム), 30 August 2015, Tokyo, Japan . [Sanjo Conference Hall at The University of Tokyo]**
 38. **Tobinai K: Novel treatment of HTLV-1-associated ATL. In Session “Improve standardized treatment level, broaden international perspective”, Invited lecture at the 2014 Annual Meeting of Chinese Society of Clinical Oncology & 17th Chinese National Clinical Oncology Conference, Xiamen, China.**
 39. **Maruyama D, Ueno T, Tokunaga T, Nagai H, Usami T, Ueda R, Tobinai K: Early oral care potentially ameliorates mucositis by pralatrexate: preliminary results in the Japanese phase I/II study for relapsed/refractory PTCL. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 40. **Tobinai K, Kim W-S, Sonehara Y, Nagahama F: Phase II study of darinaparsin in Asian patients with relapsed or refractory peripheral T-cell lymphoma. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 41. **Tobinai K, Ogura M, Ishida T, Akinaga S, Baba Y, Ueda R: Ancillary analyses of a phase II study of mogamulizumab (KW-0761) in patients with CCR4-positive, relapsed peripheral or cutaneous T-cell lymphomas. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 42. **Kamiyama Y, Maruyama D, Maeshima AM, Kitahara H, Yamazaki N, Makita S, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tobinai K: Clinicopathologic features of primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma (C-ALCL) with extracutaneous progression: long-term follow-up results. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A., Jan 29-31, 2015**
 43. **Kitahara H, Maruyama D, Maeshima AM, Makita S, Miyamoto K, Fukuhara S, Munakata W, Suzuki T, Kobayashi Y, Tajima K, Terauchi T, Kurihara H, Taniguchi H, Tobinai K: A retrospective analysis of 88 patients with peripheral T-cell lymphoma (PTCL) who underwent CHOP/CHOP-like chemotherapy. Poster Presentation in T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 44. **Tobinai K: Clinical research on T-cell lymphoma in Japan. Keynote address, T-Cell Lymphoma Forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 45. **Ishitsuka K., Is watch and wait still standard for indolent ATL? 7th annual T-cell lymphoma forum, San Francisco, CA, U.S.A. Jan 29-31, 2015**
 46. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Sato-Otsubo A, Totoki Y, Yasunaga J, Sanada M, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Nagae G, Aburatani H, Miyano S, Watanabe T, Matsuoka M, Shibata T, Shimoda K, Ogawa S, “Landscape of genetic alterations**

- in adult T-cell leukemia/lymphoma”, 56th of ASH Annual Meeting and Exposition, Moscone Center, San Francisco, U.S.A., Dec. 7, 2014 (Dec. 6- Dec. 9, 2014) (Oral/Poster)
47. Nagata Y, Enami T, Kontani K, Kataoka K, Sakata-Yanagimoto M, Kitanaka A, Sato A, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Sanada M, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Miyano S, Shimoda K, Watanabe T, Katada T, Chiba S, Ogawa S, “Novel Biological Effects and Distinct Patterns of Rhoa Mutations in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma and Angioimmunoblastic T Cell Lymphoma” 56th of ASH Annual Meeting and Exposition, Moscone Center, San Francisco, U.S.A., Dec. 7, 2014 (Dec. 6- Dec. 9, 2014) (Oral/Poster)
 48. Iwanaga M, Soda M , ”Time Trend and Age-Period-Cohort Effects on the Incidence of Patients with Adult T-Cell Leukemia in a Population-Based Study in Japan, 1991-2010”, The 56th ASH Annual Meeting and Exposition (December 6-9, 2014) in San Francisco, U.S.A., Poster II. Dec. 7, 2014
 49. Ichii M, Fujita N, Maeda T, Okuzaki D, Sekine Y, Kon S, Muromoro R, Oritani K, Matsuda T, Kanakura Y. The role of Signal-Transducing Adaptor Protein-2 in early T lymphopoiesis in thymus. The American Society of Hematology 56th Annual Meeting (2014.12.6-9, Moscone Center, San Francisco, CA, USA, Burns LJ)(発表日12.9)(Oral)
 50. Okayama A, Iwanaga M, Sagara Y, Hidaka T, Umekita K, Nakano K, Watanabe T, Yamano Y, Horai Y, Nakamura H, Kawakami A, “Human T-Lymphotropic Virus Type 1 Biomarkers in Patients with Rheumatoid Arthritis”, ACR/ARHP Annual Meeting, Boston, U.S.A., Nov 18th, 2014 (Poster)
 51. Okayama A. HTLV-1 infection and associated diseases. Seminar in Department of Immunology and Infectious Diseases, HSPH. Boston U.S.A., 2014.
 52. Ishigaki T, Uchimaru K et al, “Comprehensive Analysis of Surface Antigens on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma (ATL) Cells and Search for ATL-Initiating Cell Markers”, The 56th ASH Annual Meeting and Exposition. San Francisco, CA, 2014.
 53. Tsukasaki K : Development of Anti-CCR4 Antibody for ATL and its Activity for Treg Inhibition. Session, 32nd World Congress of Internal Medicine, 2014. Seoul Oct.24-28, 2014.
 54. Iwatsuki K. Current Japanese guidelines of therapy for cutaneous lymphomas. 3rd Eastern Asia Dermatology Congress, Jeju, Korea, Sep 24-26, 2014
 55. M. Moriuchi, H. Moriuchi, “Follow-up Study on Children Born to Human T-cell Leukemia Virus Type I Carrier Mothers in Nagasaki, Japan”, the 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Washington DC, USA, Sep. 5-9, 2014
 56. Fujita J, Ezoe S, Nagate Y, Nishikawa H, Sakaguchi S, Oritani K, Kanakura Y. Population of leukemic cells in patients with adult Tcell leukemia (ATL). The 5th JSH International Symposium 2014 (2014.5.24-25 , ACT CITY Hamamatsu Congress Center , Japan, Ohnishi I)(発表日 5.24)(Poster)
 57. Ishihara M, Araya N, Sato T, Fujii R, Tatsuguchi A, Saichi N, Nakagawa H, Yamano Y, Ueda K. Quantitative membrane proteome profiling to discover therapeutic targets for adult T-cell leukemia (ATL). AACR Annual Meeting 2014, 5-9 April, 2014, San Diego, USA.
- (国内学会)
1. 山野嘉久.HAMのCCR4モノクローナル抗体療法, 第34回日本神経治療学会総会, 2016年11月3日~5日, 鳥取(米子市)(米子市文化ホール)(招待講演)
 2. 金倉 譲.「造血幹細胞の特性とその

- 疾患に関する研究」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月15日(2016年10月13日～15日)(口演)(JSH学会賞受賞講演)
3. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、眞田昌、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、糸永英弘、今泉芳孝、棟方理、幣光太郎、久富木庸子、日高智徳、亀田拓郎、中牧剛、石山謙、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、下田和哉、渡邊俊樹、小川誠司、「**Prognostic relevance of integrated molecular profiling in adult T-cell leukemia/lymphoma**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(口演)
 4. 綿谷陽作、佐藤康晴、西田賢司、三好寛明、永田安伸、北中明、幣光太郎、白石友一、千葉健一、田中洋子、吉里哲一、吉田健一、眞田昌、宮崎泰司、高折(近藤)晃史、柴田龍弘、宮野悟、松岡雅雄、渡邊俊樹、下田和哉、大島孝一、吉野正、小川誠司、片岡圭亮、「**Comparative mutational profiling of ATL and other PTCLs**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(口演)
 5. 山岸誠、藤川大、大杉剛生、本間大輔、安達宣明、堀真琴、中川翔太、中野和民、小林誠一郎、田中勇悦、岩永正子、宇都宮與、塚崎邦弘、荒木一司、内丸薫、渡邊俊樹、「**Epigenetic landscape in adult T cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(口演)
 6. 中島誠、矢持忠徳、渡邊真理子、宇都宮與、東原正明、内丸薫、渡邊俊樹、堀江良一、「**The emergence of hyperploid cells in CD30+ subpopulation of adult T-cell leukemia**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(ポスター)
 7. 中野和民、千原庸平、小林誠一郎、内丸薫、渡邊俊樹、「**Quantitative and qualitative disorders of the Wnt5a pathway in ATL cells**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(ポスター)
 8. 今泉芳孝、岩永正子、野坂生郷、伊藤薫樹、石塚賢治、宇都宮與、戸倉新樹、友寄毅昭、下田和哉、飛内賢正、渡邊俊樹、内丸薫、塚崎邦弘、「**Nationwide survey of ATL in Japan on the prognosis and therapeutic interventions**」第78回日本血液学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月13日(2016年10月13日～15日)(口演)
 9. 片岡圭亮、永田安伸、北中明、白石友一、島村徹平、安永純一朗、十時泰、渡邊俊樹、柴田龍弘、松岡雅雄、宮野悟、下田和哉、小川誠司、「**網羅的遺伝子解析による成人T細胞白血病リンパ腫の病態解明**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月8日(2016年10月6日～8日)(日本癌学会奨励賞受賞講演)
 10. 中野和民、田部亜季、中木戸誠、千原庸平、小林誠一郎、田中勇悦、宇都宮與、津本浩一、内丸薫、渡邊俊樹、「**FoxM1とc-Myb間の相乗的活性化ループがATL細胞の悪性化形質を規定する**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月7日(2016年10月6日～8日)(口演)
 11. **Sawada L**、永野佳子、長谷川温彦、金井光、佐藤知雄、山野嘉久、田中勇悦、神奈木真理。「**IL-10はsurvivinとIRF4の誘導を介してHTLV-1感染細胞の増殖を促進する**」第75回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月7日(2016年10月6日～8日)(口演)
 12. 渡邊俊樹、山岸誠、中野和民、内丸薫、「**ATL細胞におけるシグナル伝達系の異常な活性化の機構と意義**」第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日～8日)(シンポジウム招待講演)
 13. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中明、安永純一朗、岩永正子、白石友一、千葉健一、佐藤亜以子、眞田昌、田中洋子、鈴木啓道、佐藤悠佑、塩澤裕介、吉里哲一、吉田健一、野坂生郷、菱澤方勝、今泉芳孝、日高智徳、中牧剛、宮脇修一、飛内賢正、宮崎泰司、高折(近藤)晃

- 史、柴田龍弘、宮野悟、下田和哉、松岡雅雄、渡邊俊樹、小川誠司、「成人T細胞性白血病/リンパ腫における全遺伝子プロファイリングと予後の相関」、第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日～8日)(口演)
14. 山岸誠、藤川 大、大杉剛生、堀 真琴、中野和民、小林誠一郎、岩永正子、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「エピジェネティクスを基盤とした成人T細胞白血病の新たな治療戦略」、第75回日本癌学会学術集会、パシフィコ横浜、横浜、2016年10月6日(2016年10月6日～8日)(口演)
 15. 山野嘉久、希少難病HAMの分子病理解明による治療薬開発の新展開。第1回臨床薬理学会関東・甲信越地方会、2016年9月3日、神奈川県(横浜市)〔横浜市社会福祉センター〕(招待講演)
 16. 津川浩一郎、山野嘉久、中島貴子、上野隆彦、牛谷真由美、桑原理恵、藤原佐百合、小林理々子、聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンターの現状、第1回日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会、2016年9月3日、神奈川(横浜)〔横浜市社会福祉センター〕
 17. 高 起良、片山貴子、岩永正子、相良康子、日野雅之、内丸 薫、浜口功、宇都宮 與、渡邊俊樹、「関西地区でのHTLV-1感染者コホート(JSPFAD)におけるHTLV-1水平感染キャリアの解析」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 18. 中野和民、宇都宮 與、山口一成、内丸 薫、渡邊俊樹、「Proto-oncogene MYB発現異常によるc-Myb経路攪乱がATL細胞悪性化形質を規定する」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 19. 中武彩子、阪本訓代、須藤幸夫、西片一朗、中畑新吾、武本重毅、岩永正子、相良康子、天野正宏、前田宏一、末岡栄三朗、岡山昭彦、宇都宮 與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、「AlphaLISA法を用いた血中可溶性CADM1測定系の開発とATLの診断応用への検討」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月28日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 20. 中島 誠、矢持忠徳、渡邊真理子、内丸 薫、宇都宮 與、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、「成人T細胞白血病におけるCD30陽性細胞集団に高倍数体細胞は出現する」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 21. 山岸 誠、澤 礼乃、藤川 大、堀真琴、中野和民、宇都宮 與、渡邊俊樹、内丸薫、「成人T細胞白血病(ATL)の遺伝子翻訳異常とその意義」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(Young Investigator Award Presentation)
 22. 渡邊俊樹、「ATL研究の現状－発症予防と個別化治療へ向けた展開」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(特別講演)
 23. 越智陽太郎、片岡圭亮、永田安伸、北中 明、安永純一郎、岩永正子、野坂生郷、糸永英弘、今泉芳孝、幣光太郎、宮崎泰司、高折晃史、下田和哉、松岡雅雄、渡邊俊樹、小川誠司、「ATLにおける網羅的遺伝子プロファイルが予後に与える影響」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 24. 綿谷陽作、佐藤康晴、西田賢司、三好寛明、永田安伸、北中 明、白石友一、高折晃史、宮野悟、松岡雅雄、渡邊俊樹、下田和哉、大島孝一、吉野正、小川誠司、片岡圭亮、「ATLおよびT細胞リンパ腫における遺伝子変異プロファイルの解析」、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日～8月28日)(口演)
 25. Sanaz Firouzi, Amir Farmanbar, Sreewattanawoot Sarun(Ball), Seiichiro Kobayashi, Kazumi Nakano, Makoto Yamagishi, Kenta Nakai, Kenta Nakai, Toshiki Watanabe, Yutaka Suzuki, Kaoru Uchimaruru “Comprehensive mutation profiling of HTLV-1 infected cells based on phenotypic

- analysis of ATL progression”、第3回日本HTLV-1学会学術集会、鹿児島県市町村自治会館、鹿児島、2016年8月27日(2015年8月26日~8月28日)(口演)
26. 山野嘉久、HAMの分子病態解明による治療薬開発の新展開、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市〔鹿児島県市町村自治会館〕(招待講演))
27. 新谷奈津美、佐藤知雄、八木下尚子、高橋克典、内丸 薫、山野嘉久、HTLV-1関連脊髄症(HAM)におけるHAS-Flow法を用いたATL発症高危険度患者の予測、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市〔鹿児島県市町村自治会館〕(オーラル))
28. 井上永介、Ariella Coler-Reilly、新谷奈津美、八木下尚子、佐藤知雄、高田礼子、山野嘉久、HAM発症から診断までの期間における納の運動障害重症度の経時推移の解析、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市〔鹿児島県市町村自治会館〕(オーラル))
29. 佐藤知雄、Ariella Coler-Reilly、新谷奈津美、八木下尚子、中村龍文、永井将弘、新野正明、竹ノ内徳博、中川正法、松崎敏男、山野嘉久、HAM患者に対する経口ステロイド維持療法の長期的効果、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市〔鹿児島県市町村自治会館〕(オーラル))
30. 玉木慶子、佐藤知雄、津川 潤、山野嘉久、坪井義夫、HAM患者における治療効果を予測するバイオマーカーの検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016年8月26日~28日、鹿児島(鹿児島市〔鹿児島県市町村自治会館〕(ポスター))
31. 鈴木貴久、梅北邦彦、福井翔一、岩本直樹、中村英樹、岡田覚丈、藤川敬太、荒牧俊幸、塚田敏昭、坪井雅彦、松岡直樹、中島宗敏、植木幸孝、江口勝美、日高利彦、岡山昭彦、川上純、抗HTLV-1抗体の有無が関節リウマチに対する抗TNF療法への反応性に与える影響についての検討：多施設共同研究、第60回日本リウマチ学会総会・学術集会、関節リウマチの治療：感染症、W55-1、2016。(4月21-23日(22日発表)、神奈川県横浜市、パシフィコ横浜)
32. 岡山昭彦、梅北邦彦、川上純、HTLV-1陽性関節リウマチ患者診察の留意点、第60回日本リウマチ学会総会・学術集会、臨床に役立つ感染症とリウマチ性疾患の関連、S9-2、2016。(4月21-23日(22日発表)、神奈川県横浜市、パシフィコ横浜)
33. 鈴木貴久、梅北邦彦、福井翔一、岩本直樹、中村秀樹、岡田覚丈、藤川敬太、荒巻俊幸、塚田敏昭、坪井雅彦、松岡直樹、中島宗敏、植木幸孝、日高利彦、岡山昭彦、川上純、抗HTLV-1抗体の有無が関節リウマチに対する抗TNF両方への反応性に与える影響についての検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
34. 梅北邦彦、宮内俊一、野村創、梅木一美、橋倉悠輝、久保和義、松田基弘、河野彩子、岩尾浩昭、小村真央、高城一郎、長友安弘、岡山昭彦、HTLV-1感染細胞による関節リウマチ滑膜細胞の活性化機構、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
35. 橋倉悠輝、梅木一美、山田明輝、山本成郎、梅北邦彦、長谷川寛雄、柳原克紀、岡山昭彦、HTLV-1欠損プロウイルスの細胞間感染、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
36. 中武彩子、阪本訓代、須藤幸夫、西片一朗、中畑新吾、武本重毅、岩永正子、相良康子、天野正宏、前田宏一、末岡栄三朗、岡山昭彦、宇都宮與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、AlphaLISA法を用いた血中可溶性CADM1測定系の開発とATLの診断応用への検討、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
37. 梅木一美、橋倉悠輝、山田明輝、山本成郎、梅北邦彦、浜口 功、岡山昭彦、HTLV-1抗体ウエスタンブロット判定保留検体における核酸検査の有効性、第3回日本HTLV-1学会学術集会、2016。(8月26-28日(28日発表)、鹿児島県鹿児島市、鹿児島県市町村自治会館)
38. 桐原志保美、板垣亮里、岩永正子、新野大介：長崎大学病院における悪性リンパ腫の病理学的検討2006-2015:ATLの割合トレンド：第3回日本HTLV-1学会学術集会：プログ

- ラム・抄録集p.83：演題番号P-23, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
39. 板垣亮里, 桐原志保美, 岸川孝之, 岩永正子, 新野大介: 上五島病院における悪性リンパ腫の病理学的検討 2006-2015:ATLの割合のトレンド: 第3回日本HTLV-1学会学術集会: プログラム・抄録集p.83:演題番号P-24, 2016年8月27日~28日, 鹿児島県市町村自治会館
40. **Yasuko Sagara, Masako Iwanaga, Yasuhiro Sagara, Yukiko Inoue, Maiko Morita, Nobuyo Goto, Toshiki Watanabe, Hiroyuki Kiyokawa**, "Prediction of MHC class II epitopes in HTLV-1 proteins: In silico screening of vaccine candidates", 第63回日本ウイルス学会学術集会, 福岡国際会議場, 福岡, 2015年11月23日(2015年11月22日~24日) (ポスター)
41. 山岸 誠、片野晴隆、比島恒和、太田泰徳、岡田誠治、渡邊俊樹、**「Epigenetically programmed defenseless signaling in malignant lymphoma」**, 第77回日本血液学会学術集会、ホテル日航金沢、金沢、2015年10月18日(2015年10月16日~18日) (口演)
42. 中野和民、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、西田亜季、内丸 薫、渡邊俊樹、**「Is Wnt5a the final trigger for progression from indolent- to aggressive-type ATL cells?」**, 第77回日本血液学会学術集会、ホテル日航金沢、金沢、2015年10月17日(2015年10月16日~18日) (口演)
43. 中島 誠、矢持忠徳、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、**「CD30 characterizes abnormal lymphocytes with polylobated nuclei in HTLV-1 carriers」**, 第77回日本血液学会学術集会、ANAクラウンプラザホテル金沢他、金沢、2015年10月17日(2015年10月16日~18日) (ポスター)
44. 山岸 誠、片野晴隆、比島恒和、太田泰徳、岡田誠治、渡邊俊樹、**「B細胞悪性リンパ腫におけるゲノム及びエピゲノム異常に起因するシグナル伝達経路の恒常的活性化」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月9日(2015年10月8日~10日) (口演)
45. 福世(南波)宏枝、福世 真樹、松坂恵介、船田さやか、深山正久、渡邊俊樹、金田篤志、**「EBウイルス感染によるDNA異常メチル化時のヒドロキシメチル化変化」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月9日(2015年10月8日~10日) (口演)
46. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮與、内丸 薫、渡邊俊樹、**「造腫瘍および細胞増殖の立役者FoxM1:ATLの新たな治療標的として」**, 第74回日本癌学会学術集会、名古屋国際会議場、名古屋、2015年10月8日(2015年10月8日~10日) (口演)
47. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸薫、石塚賢治、石田高司、今泉芳孝、伊藤薫樹、宇都宮與、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘、**「第11次ATL全国実態調査報告」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月23日(2015年8月21日~8月23日) (口演)
48. 中島誠、矢持忠徳、渡邊真理子、内丸 薫、宇都宮 與、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一、**「HTLV-1キャリアにおける多分葉核を伴う異常リンパ球と病型の進展はCD30により特徴付けられる」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月23日(2015年8月21日~8月23日) (口演)
49. 澤 礼乃、山岸 誠、酒井直規、藤川 大、中野和民、宇都宮與、内丸薫、渡邊俊樹、**「成人T細胞白血病におけるTAK1 - p38経路の活性化とその意義」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22-23日(2015年8月21日~8月23日) (ポスター)
50. 堀 真琴、山岸 誠、藤川 大、中川翔太、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、**「ATL細胞特異的なエピゲノム異常を制御するEZH2の質的、量的変化」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22-23日(2015年8月21日~8月23日) (ポスター)
51. 野田奈津美、若林 翼、矢持忠徳、矢持淑子、佐々木陽介、**Sanaz Firouzi**、瀧本雅文、渡邊俊樹、**「成人T細胞性白血病におけるTumor Initiating Cellの微小環境探索の試み」**, 第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年

- 8月22-23日(2015年8月21日~8月23日)(ポスター)
52. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「造腫瘍および細胞増殖の立役者 **FoxM1: ATLの新たな治療標的として**」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
53. 相良康子、守田麻衣子、井上由紀子、倉光球、大隈和、後藤信代、平山秀明、岩永正子、矢持忠徳、渡邊俊樹、浜口 功、迫田岩根、入田和男、清川博之、「九州のHTLV-1水平感染の現状と感染初期の産生抗体による **PVL抑制効果**」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
54. 藤川大、山岸誠、堀 真琴、中野和民、田中勇悦、小林誠一郎、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「ATL細胞における **EZH2** 依存的なエピゲノム異常とその原因メカニズムの解析」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(**Young Investigator Award**口演)
55. 片岡圭亮、永田安伸、北中 明、白石友一、島村徹平、安永純一朗、十時泰、宮崎泰司、高折晃史、油谷浩幸、渡邊俊樹、柴田龍弘、松岡雅雄、宮野 悟、下田和哉、小川誠司、「**Integrative molecular analysis of viral and host genome in ATL**」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
56. 倉光 球、大隈 和、矢持忠徳、山野嘉久、長谷川寛雄、上平 憲、岡山昭彦、久保田龍二、出雲周二、成瀬功、相良康子、佐竹正博、渡邊俊樹、山口一成、浜口 功、「**HTLV-1** 核酸検査の標準化および検出感度の検討：多施設共同研究」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
57. Firouzi Sanaz、矢持忠徳、内丸 薫、渡邊俊樹、「**Monitoring clonal composition of HTLV-1 infected cells**」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
58. 中野和民、西田亜季、千原庸平、小林誠一郎、石垣知寛、田中勇悦、宇都宮 與、内丸 薫、渡邊俊樹、「造腫瘍および細胞増殖の立役者 **FoxM1: ATLの新たな治療標的として**」、第2回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2015年8月22日(2015年8月21日~8月23日)(口演)
59. 西田亜季、秋葉宏樹、長門石暁、津本浩平、渡邊俊樹、「薬剤デリバリーの標的特異性創出を目的とした化学修飾可能な内在化単鎖抗体の構築」、第31回 日本DDS学会学術集会、京王プラザホテル、東京、2015年7月2日(2015年7月2日~3日)(ポスター)
60. 野村隼人、濱田利久、岩月啓氏、「わが国の成人T細胞白血病/リンパ腫および菌状息肉症/セザリ-症候群の地域別発生頻度について」第1回HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、東京、2015年8月23日(2015年8月21日~23日)
61. 濱田利久、野村隼人、岩月啓氏、「わが国における皮膚病変を有する成人T細胞白血病/リンパ腫の地域別発生頻度」日本皮膚科学会第143回宮崎地方会、宮崎観光ホテル、2015年11月15日(2015年11月14,15日)
62. 梅北邦彦、日高利彦、岡山昭彦。ヒトTリンパ向性ウイルス1型(HTLV-1)感染は関節リウマチの病態を修飾し生物学的製剤の治療抵抗性に関与する。第112回日本内科学会総会・講演会。アレルギー・膠原病① **167. 2015. (4月10日-12日(10日発表)**、京都府京都市、みやこめっせ)
63. 宮内俊一、梅北邦彦、岡山昭彦。リウマチ性疾患の診療におけるHTLV-1感染の意義に関する診療実態調査。第59回日本リウマチ学会総会・学術集会。ポスターセッション **PS2-21 リウマチ性疾患の合併症 2 P2-234. 2015. (4月23日-25日(24日発表)**、愛知県名古屋市、名古屋国際会館)
64. 鴨居功樹、岡山昭彦、大野京子。ATL関連眼疾患に関する診療の現状：全国アンケート調査結果。第2回日本HTLV-1学会学術集会。Session **6 HAM・関連疾患 0-30. 2015. (8月21日-23日(23日発表)**、東京都港区、東京大学医科学研究所1号館講堂)
65. 梅北邦彦、宮内俊一、野村創、梅木一美、久保和義、松田基弘、河野彩

- 子, 岩尾浩昭, 小村真央, 楠元規生, 高城一郎, 長友安弘, 日高利彦, 岡山昭彦. **HTLV-1**感染による関節リウマチ病態の修飾機構の検討. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. **Session 6 HAM・関連疾患 O-31. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所講堂)**
66. 福元拓郎, 池辺詠美, 緒方正男, 長谷川寛雄, 岡山昭彦, 田中勇悦, 伊波英克. 当講座で樹立したATL患者末梢血由来細胞株のFACS解析およびHTLV-1プロウイルスの挿入部位の特定とプロウイルスゲノム塩基配列の解読. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. ポスター発表 **P-23. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)**
67. 相良康子, 井上由紀子, 守田麻衣子, 後藤信代, 矢持忠徳, 渡邊俊樹, 岩永正子, 浜口 功, 迫田岩根, 入田和男, 清川博之. **HTLV-1** キャリアにおける末梢血中のプロウイルス量と保有するHLAとの関連. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第62回総会・第83回例会 (2015年12月22日開催) セッション4: 副作用・感染症 (第2会場) **10:40~11:10**, 沖縄県市町村自治会館, 那覇市
68. 飛内賢正: **HTLV-1**とATL / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. 第112回日本内科学会総会・講演会シンポジウム2: ウイルス感染と腫瘍: **HTLV-1**とATL. / **Human T-lymphotropic virus type-I and adult T-cell leukemia-lymphoma**. シンポジウム2. 京都, 2015.
69. **Tobinai K: Disease-oriented treatment of T/NK-cell lymphoma. Symposium 4: Progress in the diagnosis and treatment for intractable lymphomas.** 日本血液学会, 金沢, 2015.
70. 山口亜由美, 松井礼子, 岡村直香, 瀬尾幸子, 根津雅彦, 伊藤國明, 石井源一郎, 齋藤真一郎, 塚崎邦弘: **Nineteen cases of MTX-LPDs in a single center; Benefit of clinical pharmacist intervention** 単施設におけるmethotrexate関連リンパ増殖性疾患 (**MTX-associated lymphoproliferative disorders**) 20例と薬剤師の役割. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, **2015,7,18** (ポスター)
71. 岡村直香, 山口亜由美, 松井礼子, 瀬尾幸子, 根津雅彦, 齋藤真一郎, 伊藤國明, 田丸淳一, 石井源一郎, 塚崎邦弘: ステロイド単独療法で寛解した**MTX**中止抵抗性の**MTX**関連リンパ増殖性疾患の1例. 日本リンパ網内系学会会誌 (**1342-9248**)55巻 **Page106**, 岡山 **2015.6** (ポスター)
72. 山野嘉久, 山内淳司, 大勝秀樹, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾. **HTLV-1**陽性ドナーからの生体腎移植による**HAM**の発症率と特徴. [**High incidence of HAM after Kidney transplantation from HTLV-1 positive donors.**], 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
73. 佐藤健太郎, 菊池崇之, 木村未祐奈, 込田みどり, 島田 奏, 関来未, 橘茉莉花, 八木下尚子, 佐藤知雄, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 鈴木弘子, 高田礼子, 山野嘉久. 患者レジストリへの介入方法と患者満足度の変化. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
74. 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 菊池崇之, 八木下尚子, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 佐藤知雄, 鈴木弘子, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. **HAM**患者レジストリ「**HAM**ねっと」を活用した経年的前向き調査. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
75. 沢辺愛加, 根岸由衣, 野田和里, 平井祐士, 井上永介, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 山野嘉久. 希少難病**HAM**の臨床的有効性評価指標の検討. 第56回日本神経学会学術大会, **2015年5月20日~23日**, 新潟 (新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]
76. 山内淳司, 柴垣有吾, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 山野嘉久, 力石辰也. **HTLV-1**陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する**HAM**の特徴. 第60回日本透析医学会学術集会・総会, **2015**

- 年6月26日～28日, 横浜〔パシフィコ横浜〕
77. 山野嘉久. 希少難病を知る - 再発性多発軟骨炎の病態 -. 第20回日本難病看護学会学術集会, 2015年7月25日, 東京(大田区)〔大田区産業プラザ〕
78. 倉光 球, 大隈 和, 矢持忠徳, 山野嘉久, 長谷川寛雄, 上平憲, 岡山昭彦, 久保田龍二, 出雲周二, 成瀬功, 相良康子, 佐竹正博, 渡邊俊樹, 山口一成, 浜口功. HTLV-1核酸検査の標準化および検出感度の検討: 多施設共同研究. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
79. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 植田幸嗣. 末梢血CD4陽性T細胞を用いた膜プロテオーム解析によるHTLV-1関連疾患に対する新規治療標的の探索. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
80. 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾, 湯沢賢治, 山野嘉久. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
81. 佐藤知雄, 安藤 仁, 高橋克典, 國友康夫, Ariella Coler-Reilly, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)における髄液細胞のケモカイン受容体解析. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕.
82. 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAM患者の思いを知る～SEIQoL-DW(個人の生活の質評価法)を用いた関わりを通して～. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
83. 八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子, 山野嘉久. HAM患者レジストリ「HAMねっと」の経年的患者満足度調査. 第2回日本HTLV-1学会学術集会, 2015年8月22日～23日, 東京都(港区)〔東京大学医科学研究所〕. [ポスター]
84. 冨田まや子, 佐々木光穂, 平田 誠, 樋野村亜希子, 坂手龍一, 西下直希, 山野嘉久, 吉良潤一, 小原有弘, 松山晃文. 難病バンクにおけるHLAタイプング導入による難病研究推進. 第24回日本組織適合性学会, 2015年9月10日～12日, 茨城(水戸市)〔ホテル レイクビュー水戸〕
85. 山野嘉久. 希少難病HAM患者レジストリ「HAMねっと」の臨床研究・治験への応用 ～運営事務局の立場から～. 第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2015 inKOBE. 2015年9月12日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
86. 山野嘉久. HAMの治療展望. 第27回日本神経免疫学会学術集会, 2015年9月15～16日, 岐阜(岐阜市)〔長良川国際会議場〕
87. 山野嘉久. 臓器移植後に伴うHTLV-1関連疾患発症の実態について. 第9回HTLV-1対策推進協議会, 2015年9月30日, 東京(東京都千代田区)〔厚生労働省〕
88. 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)に対する抗CCR4抗体療法の開発. 第43回日本臨床免疫学会総会, 2015年10月22日～24日, 兵庫(神戸市中央区)〔神戸国際会議場〕
89. 山野嘉久. HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議, 2015年11月10日, 東京(東京都千代田区)〔日本医療研究開発機構〕
90. 山野嘉久, 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 湯沢賢治. HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植によるHAMの特徴. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
91. 佐藤知雄, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAMの進行度の特徴と関連バイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)〔都市センターホテル〕
92. 玉木慶子, 津川 潤, 佐藤知雄, 山野嘉久, 坪井義夫. HAMにおける治療

- 効果を予想するバイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成27年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)[都市センターホテル]
93. 森内浩幸, **HTLV-1**母子感染症正しい知識とキャリア支援について、平成27年度北海道**HTVL-1**母子感染予防対策研修会、北濃健保会館、札幌、2015年11月7日
94. 森内浩幸、シンポジウム 母子感染対策の最前線**2015 HTLV-1**母子感染対策：準備不足と混乱の中での船出、第51回日本周産期・新生児医学会学術集会、ヒルトン福岡シーホーク、福岡、2015年7月11日(2015年7月10日～12日)
95. 森内浩幸、シンポジウム 母子感染対策の最前線**2015 HTLV-1**母子感染対策：準備不足と混乱の中での船出、第51回日本周産期・新生児医学会学術集会、ヒルトン福岡シーホーク、福岡、2015年7月11日(2015年7月10日～12日)
96. 齋藤 滋：**HTLV-1**母子感染の現状と課題。第46回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会。2015.11.7, 富山。(招待講演)
97. 堀 真琴、藤川 大、中川翔太、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹、山岸誠、「成人**T**細胞白血病における**EZH2**依存的エピジェネティック異常の包括的解析」第37回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月25日(2014年11月25日～27日)(ポスター)
98. Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Osvany Lopez, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, **Toshiki Watanabe**, "Monitoring clonal composition of **HTLV-1**-infected cells based on provirus integration sites", 第37回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月27日(2014年11月25日～27日)(ポスター)
99. 梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦. **HTLV-1**抗体確認試験としての**Line Immunoassay**の有用性. 第61回日本臨床検査医学会学術集会. 福岡国際会議場, 2014. 11.22～25
100. 相良康子、井上由紀子、守田麻衣子、後藤信代、岩永正子、矢持忠徳、渡邊俊樹、浜口 功、相良康弘、清川博之、「**HTLV-1 PVL**と **HLA Class I** 結合 **peptide**の乖離時間との関連」、第62回日本ウイルス学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年11月11日(2014年11月10日～12日)(一般口演)
101. **Nakashima M, Yamochi T, Higashihara M, Watanabe T**, Horie R, "CD30 expressing cells in **HTLV-1** carriers reveal abnormal nuclear morphology resembling flower cells", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
102. 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽治、内丸 薫、石塚賢治、天野正宏、石田高司、今泉芳孝、鷓池直邦、宇都宮 與、大島孝一、河井一浩、田中淳司、戸倉新樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘、「全国医療機関における成人**T**細胞白血病・リンパ腫(**ATL**)患者の実態調査：2010年～2011年」、第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
103. **Yamagishi M, Takahashi R, Sakai N, Fujikawa D, Nakagawa S, Yamochi T, Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K, Utsunomiya A, Watanabe T**, "Tumor-specific gene expression leads to p38 and Hedgehog signaling activation in adult T cell leukemia", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
104. **Nagata Y, Enami T, Sakata-Yanagimoto M, Kataoka K, Kitanaka A, Sato A, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A, Yoshida K, Sanada M, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Miyano S, Shimoda K, Watanabe T, Chiba S, Ogawa S**, "Distinct patterns of **RHOA** mutations in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma and peripheral T-Cell lymphomas", 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日～11月2日)(一般口演)
105. **Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A, Sato-Otsubo A, Totoki Y, Yasunaga J, Sanada M, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Suzuki H, Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A**,

- Yoshida K, Munakata W, Nakamura H, Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T, Kameda T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Nagae G, Aburatani H, Miyano S, Watanabe T, Matsuoka M, Shibata T, Shimoda K, Ogawa S**, “Landscape of genetic alterations in adult T-cell leukemia/lymphoma”, 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年11月1日(2014年10月31日~11月2日)(一般口演)
106. 上田裕二郎, 高橋明子, 浦崎哲也, 山田遥子, 和泉宏昌, 横山雄章, 石井源一郎, 湯浅博美, 根津雅彦, 伊藤國明, 塚崎邦弘: **R-CHOP療法後の二次性MDSに免疫学的血小板減少性紫斑病を併発しステロイド/リツキシマブ療法が奏効した一例**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日(ポスター)
107. **Takata K, Yamaguchi M, Yoshino T, Ishizuka N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y, Ishizawa K, Kubota N, Itou K, Usui N, Miyazaki K, Utsumi K, Masaki Y, Nosaka K, Fukushima N, Ohmachi K, Shimada K, Morimoto H, Oshimi K, Kinoshita T, Tsukasaki K, Tobinai K**: **Prognostic biomarkers in patients with localized NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC**, 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日(口演)
108. 石垣知寛, 小林誠一郎, 大野伸広, 大田泰徳, 渡辺信和, 東條有伸, 中内啓光, 内丸 薫. 間質依存性増殖を示す新規急性型ATL細胞株の樹立と **in vivo** 増殖モデルの解析. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
109. **Jo N, Ohno N, Takeda R, Nakamura S, Hirano M, Takei S, Kawamata T, Yokoyama K, Fukuyama T, Yuji K, Uchimaru K and Tojo A**. **ESHAP regimen as salvage therapy for patients with relapsed or refractory adult T cell leukemia**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
110. **Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Uchimaru K and Tojo A**. **Differential diagnosis of by flowcytometric analysis of post allo-SCT myelopathy; a case report**. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日~11月2日
111. 永田安伸, 榎並輝和, 坂田(柳元)麻実子, 片岡圭亮, 北中 明, 佐藤亜以子, 白石友一, 眞田昌, 宮野 悟, 下田和哉, 渡邊俊樹, 千葉 滋, 小川誠司, 「成人T細胞白血病/リンパ腫と他の末梢性T細胞性腫瘍における **RHOA** の特徴的な変異分布と生物学的機能の解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月26日(2014年9月25日~27日)(口演)
112. 渡邊俊樹, 山岸 誠, 「ATL発症の基盤となるゲノム・エピゲノム異常の解析」, シンポジウム: 16 . ATL発がん機構と治療の新展開, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(招待口演)
113. 片岡圭亮, 永田安伸, 北中 明, 佐藤亜以子, 十時 康, 安永純一朗, 油谷浩幸, 宮野 悟, 渡邊俊樹, 松岡雅雄, 柴田龍弘, 下田和哉, 小川誠司, 「成人T細胞白血病/リンパ腫におけるゲノム異常の網羅的解析」, シンポジウム: 16 . ATL発がん機構と治療の新展開, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(シンポジウム口演)
114. 藤川 大, 山岸 誠, 中川翔太, 黒川直也, 副島あい, 石田尚臣, 田中勇悦, 中野和民, 渡邊俊樹, 「ATL細胞における **EZH2** 依存的エピジェネティック異常の包括的解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)
115. 矢持忠徳, 守田陽平, 矢持淑子, **Sanaz Firouzi**, 佐々木陽介, 渡辺信和, 内丸 薫, 宇都宮 與, 渡邊俊樹, 「**Putative ATL tumor initiating cells** の解析」, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)
116. **Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe** , “A new

- high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(ポスター)**
- 117. Ishigaki T, Kobayashi S, Nakano N, Utsunomiya A, Uchimaru K, Tojo A. Hierarchical clustering analysis of surface antigens on ATL cells and search for AT-initiating cell marker.** 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日~27日。
- 118. Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Oshima K, Seto M: Identification of STX11 as a tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas.** 第73回日本癌学会学術総会、横浜、2014年9月25日~27日。(英語口演)
- 119. 古田裕幸、根津雅彦、松井礼子、上田裕二郎、浦崎哲也、岡村直香、横山雄章、和泉宏晶、山田遥子、湯浅博美、伊藤國明、塚崎邦弘、齊藤信一郎: ステロイド先行使用のリツキシマブ輸注反応に対する有用性の検討.** 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日(2014年9月25日~27日)(口演)
- 120. 尋田まや子、平田誠、佐々木光穂、樋野村亜希子、前畑みどり、高橋一郎、増井徹、山野嘉久、吉良潤一、米田悦啓、坂手龍一.** 難病研究資源バンクにおける収集試料の HLA タイピング実施による難病研究の推進. 第23回日本組織適合性学会大会、2014年9月13日~15日、長崎県(長崎市)。
- 121. 余郷麻希子、大本周作、向井泰司、安部宏、相澤良夫、高橋利幸、山野嘉久、鈴木正彦.** 慢性C型肝炎に対するインターフェロン療法後に、抗アクアポリン4抗体及び抗HTLV-1抗体陽性の脊髄長大病変を呈した49歳女性例. 第210回日本神経学会関東・甲信越地方会、2014年9月6日、東京都(千代田区)。
- 122. 佐藤知雄、新谷奈津美、安藤 仁、山内淳司、國友康夫、高橋克典、斎藤祐美、石川美穂、八木下尚子、山野嘉久.** HAMにおけるTh1様異常T細胞の発生機構および病態への関与. 第19回日本神経感染症学会総会学術集会・第26回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014年9月4日~6日、石川県(金沢市)。
- 123. 山内淳司、新谷奈津美、安藤 仁、Ariella Coler-Reilly、國友康夫、高橋克典、八木下尚子、佐藤知雄、宇都宮與、山野嘉久.** HAMにおける抗CCR4抗体療法の有用性およびCCR4+CD8+T細胞の異常に関する検討. 第19回日本神経感染症学会総会学術集会・第26回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014年9月4日~6日、石川県(金沢市)。
- 124. 藤川 大、山岸 誠、黒川直也、副島あい、中川翔太、石田尚臣、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹.** 「ATL細胞におけるEZH2依存的エピジェネティック異常の包括的解析」. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 125. 佐竹正博、相良康子、岩永正子、浜口 功.** 献血者のデータから明らかになったHTLV-1水平感染の実態. 第1回日本HTLV-1学会学術集会8月24日(日)会場: 東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 126. 森内浩幸、武田敬子、土居 浩、三浦清徳、増崎英明、柳原克紀、上平憲.** 「長崎県におけるHTLV-1キャリア母体から生まれた児の追跡調査」. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 127. Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe.** “A new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 128. 中島 誠、矢持忠徳、東原正明、渡邊俊樹、堀江良一.** 「CD30はHTLV-1キャリアにおける異常リンパ球に発現し、核の形態変化に関与する」. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日~8月24日)(口演)
- 129. 中武彩子、小林行治、中畑新吾、西片一郎、岩永正子、相良康子、北中明、天野正宏、前田宏一、末岡栄三**

- 朗、瀬戸山充、岡山昭彦、宇都宮與、下田和哉、渡邊俊樹、森下和広、「血中可溶性CADM1/TSLC1測定によるATL診断法の開発」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
130. 岩永正子, 早田みどり. 長崎県におけるATL罹患率のAge-Period-Cohort解析: 1986~2010年. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
131. 武本重毅、岩永正子、ポルクナラティオン、相良康子、鶴澤耕治、守田和樹、渡邊俊樹、「HTLV-1キャリアの可溶性CD30血中濃度と成人T細胞白血病発症リスク: 症例対照研究」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
132. 西田亜季、長門石暁、中野和民、山岸誠、矢持忠徳、田中勇悦、津本浩平、渡邊俊樹、「単鎖抗体(scFv)を用いたHTLV-1感染細胞特異的miRNA輸送システムの構築」、第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
133. 梅木一美、橋倉悠輝、山本成郎、岡山昭彦. 高感度PCR法およびLine ImmunoassyによるHTLV-1抗体陽性の確認. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
134. 橋倉悠輝、梅木一美、山本成郎、長谷川寛雄、柳原克紀、岡山昭彦. MT-2細胞HTLV-1プロウイルスの組み込み部位および内部構造の多様性. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
135. 平野光人、大野伸広、小林誠一郎、石垣知寛、田野崎隆二、鴨居功樹、内丸 薫、東條有伸. 急性型ATLとHTLV-1ぶどう膜炎の同時発症の1例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
136. 石垣知寛、小林誠一郎、大野伸広、中野伸亮、宇都宮與、山崎 聡、渡辺信和、東條有伸、中内啓光、内丸 薫. 急性型ATLにおける細胞表面抗原のクラスタリング解析とATL幹細胞マーカーの探索. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日(2014年8月22日-8月24日)(口演)
137. 新野大介、谷口広明、今泉芳孝、佐々木大介、長谷川寛雄、三好寛明、郭英、加藤丈晴、柳原克紀、塚崎邦弘、宮崎泰司、大島孝一: 成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)におけるMALT1発現と予後との関係. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
138. 岡村直香、上田裕二郎、根津雅彦、湯浅博美、伊藤國明、石井源一郎、塚崎邦弘: モガムリズマブ2回目の点滴後に多形滲出性紅斑様の薬疹をきたした難治性ATLの一例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日(2014年8月22日-8月24日)(ポスター)
139. 山野嘉久、木村美也子、八木下尚子、鈴木弘子、石川美穂、小池美佳子、齊藤祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、高田礼子. HAM患者登録システム「HAMねっと」を用いた疫学的解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
140. 佐藤知雄、井上永介、新谷奈津美、高橋克典、國友康夫、Ariella Coler-Reilly、山内淳司、八木下尚子、山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)の臨床的評価指標の有用性に関する検討. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
141. 新谷奈津美、佐藤知雄、安藤 仁、外丸詩野、Ariella Coler-Reilly、八木下尚子、山内淳司、長谷川温彦、神奈木真理、田中勇悦、宇都宮與、山野嘉久. HTLV-1によるHTLV-1関連脊髄症(HAM)病原性T細胞の発生機構の解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都(港区). (口演)
142. 八木下尚子、有福厚孝、菊池崇之、木村未祐奈、佐藤健太郎、石川美穂、鈴木弘子、小池美佳子、齊藤祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、木村美也子、高田礼子、山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)患者登録システム「HAMねっと」の患者満足度調査. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年

- 8月22日~24日,東京都(港区).
(ポスター)
143. 山内淳司, 新谷奈津美, 安藤 仁, 國友康夫, 高橋克典, **Ariella Coler-Reilly**, 八木下尚子, 佐藤知雄, 宇都宮與, **山野嘉久**. **HAM**における抗**CCR4**抗体療法の有用性および**CCR4+CD8+T**細胞の異常に関する検討. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 144. 遠藤寿子, 中島 孝, 池田哲彦, 大田健太郎, 會田 泉, 米持洋介, **山野嘉久**. **HAM**の歩行不安定症に対する歩行改善プログラムに関する検討. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 145. 寺田裕紀子, 鴨居功樹, 山野ちなみ, **山野嘉久**. **HTLV-1**キャリアに合併した関節リウマチに対する生物学的製剤の使用で**HTLV-1**ぶどう膜炎と**HTLV-1**関連脊髄症が悪化した1例. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区). (口演)
 146. 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, **山野嘉久**, 菅野純夫, 植田幸嗣. **CD4**陽性**T**細胞を用いた膜プロテオーム解析による**HTLV-1**関連脊髄症に対する新規治療標的分子の探索. 第1回日本**HTLV-1**学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区).
 147. 齋藤 滋: **HTLV-1**母子感染対策協議会の役割と運営. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2014, 7, 14, 千葉. (招待講演)
 148. 吉田稚明, 都築 忍, 加留部謙之輔, 高原大志, 錦織桃子, 下山正徳, 大島孝一, 塚崎邦弘, 瀬戸加大: **STX11**は**T**細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (優秀演題口演)
 149. 山田遥子, 根津雅彦, 岡村直香, 湯浅博美, 伊藤國明, 小嶋基寛, 石井源一郎, 塚崎邦弘: 致死的腫瘍崩壊症候群(**TLS**)を来し**M**蛋白血症を伴う**IgH/c-MAF** 転座陽性の**B**細胞腫瘍の一例. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 150. 永井宏和, 小椋美知則, 塚崎邦弘, 上田龍三へ飛内賢正: 再発・難治性の日本人末梢性**T**細胞リンパ腫(**PTCL**)患者を対象とするフォロデシンの第**I/II**相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 151. 丸山大, 永井宏和, 前田嘉信, 塚崎邦弘, 上田龍三, 飛内賢正: 再発・難治性の日本人末梢性**T**細胞リンパ腫(**PTCL**)患者を対象とした**pralatrexate**の第**I/II**相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日. (ポスター)
 152. 築山尚文, 三浦清徳, 淵 直樹, 長谷川寛雄, 柳原克紀, 森内浩幸, 増崎英明, 「**HTLV-1**キャリア妊婦末梢血中および出生児臍帯血中の**HTLV-1**プロウイルス量および**HTLV-1**抗体に関する検討」, 第31回日本産婦人科感染症研究会学術集会, 神戸国際会議場, 神戸, 2014年6月8日(2014年6月7日~8日)(口演)
 153. **山野嘉久**. **HAM**の炎症慢性化における**astrocyte**を介した炎症悪性ループの重要性. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市).
 154. 菊池崇之, 有福厚孝, 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 本橋隆子, 木村美也子, 網中雅仁, 高田礼子, 八木下尚子, **山野嘉久**. 患者**QOL**の改善に向けた患者レジストリの満足度調査. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市).
 155. 齋藤 滋: 血液・母乳を介した母子感染(**HTLV-1**母子感染を中心に). 第62回日本輸血・細胞治療学会総会; 2014.5.15~17, 奈良. (招待講演)
- (その他)
1. 齋藤 滋: **HTLV-1**母子感染対策~医療機関と地域が協力して行う母子感染予防~. 高知県**HTLV-1**母子感染対策に関する研修会. 2017.2.7, 高知(招待講演)
 2. 齋藤 滋. 感染症Today「**HTLV-1**母子感染予防に関する最近の話題」. ラジオ**NIKKEI**出演. 2016.12.7
 3. **山野嘉久**. **HAM**患者レジストリ「**HAM**ねっと」による難病医療の向上を目指して, **AMED**連携シンポジウム, 2017年1月6日, 東京(千代田区大手町)(国立研究開発法人日本医療研究開発機構会議室)(招待講演)
 4. 渡邊俊樹, 「**ATL**のクローン性増殖の分子基盤と新規治療法の探索」, 長崎血液疾患エキスパートミーティング, 協和発酵キリン株式会社主催, ベス

- トウェスタンプレミアホテル長崎 6 F「グランド」、長崎県長崎市、2016年9月30日(招待講演)
5. 渡邊俊樹、「HTLV-1/ATL研究の目指すもの：疾患の基礎研究から発症予防・治療法開発へ」、平成28年度第1回長崎大学大学院セミナー、長崎大学病院新中央棟2階第1会議室、長崎県長崎市、2016年9月14日(招待講演)
 6. 渡邊俊樹、「我が国に多い白血病ウイルスと白血病」、平成28年度いわみざわ市民大学、岩見沢市生涯学習センター「いわなび」、北海道岩見沢市、2016年8月31日(招待講演)
 7. 渡邊俊樹、「ATL細胞におけるエピジェネティクス異常の実態と分子標的治療」、日沼頼夫先生メモリアルシンポジウム- HTLV-1 研究の現況と展望-、京都大学芝蘭会館、京都、2016年3月16日(招待講演)
 8. 渡邊俊樹、「ヒトレトロウイルス HTLV-1 感染と免疫疾患」、第23回自己抗体と自己免疫シンポジウム—感染と自己免疫、丸ビルホール、東京、2016年2月13日(招待講演)
 9. 渡邊俊樹、「ATL発症機構の理解の展開と発症予防・治療法開発の現状」、宮崎大学医学部皮膚科学教室・天野正宏教授就任祝賀会特別講演、宮崎観光ホテル、宮崎、2015年11月14日(招待講演)
 10. 齋藤 滋：HTLV-1 感染予防 Up to date—産婦人科医・小児科医・保健師が協力して行う母子感染予防—、平成27年度 HTLV-1対策医療従事者等研修会、2015.10.10、岩手。(招待講演)
 11. 齋藤 滋：講義「HTLV-1の現状と助産師の役割」、日本看護協会 研修、2015.6.25, 神戸。
 12. 渡邊俊樹、「HTLV-1の病原性発現機構とATLの発症機構」、第5回病原微生物部門セミナー、山口大学農学部、山口、2015年1月20日(招待講演)
 13. 渡邊俊樹、「ATL発症機構の解析に基づく発症予防・新規治療法の探索」、第13回さいたま血液勉強会、大日本住友製薬(株)主催、大日本住友製薬(株)埼玉支店、埼玉、2014年11月14日(招待講演)
 14. **Watanabe T**, “Molecular mechanisms of leukemogenesis of adult T-cell leukemia (ATL) caused by HTLV-1”, 2d IARI Symposium, Lyon, France, Nov. 3 (Nov. 3-4), 2014
 15. 渡邊俊樹、「ATL発症機構の解析に基づく発症予防法と治療法の開発」、ATL 学術集会、協和発酵キリン(株)主催、盛岡グランドホテル、岩手、2014年10月9日(招待講演)
 16. 斉藤愛記、持田佳奈子、鶴山恵理、市川裕菜、大友悠太郎、掛谷綾香、深澤麻純、宇野雅哉、徳永文稔、宇都宮 與、渡邊俊樹、山岡昇司、「HTLV-I 感染細胞および上皮系腫瘍細胞においてユビキチン化修飾酵素 A20 は caspase-8 抑制因子として機能する」、新学術領域研究「修飾シグナル病」若手ワークショップ、東京、2014年(2014年9月30日~10月2日)
 17. 渡邊俊樹、「ATLの病態と発症に関わる分子機構解明の現状」、HTLV-1 セミナー、佐賀県地域医療再生計画事業主催、ホテルニューオータニ佐賀、佐賀、2014年7月4日(招待講演)
 18. 渡邊俊樹、「ATL発症に伴う分子異常、そして難病への取り組み」、ATLシンポジウム—成人 T 細胞白血病(ATL)と原因ウイルス(HTLV-1)「ATL細胞の培養から始まったHTLV-1研究」、高知大学医学部主催、高新文化ホール・高知、2014年5月24日(招待講演)
 19. 渡邊俊樹、「ATL発症とプログレッションの分子基盤解明の試み」、ATL small meeting、協和発酵キリン(株)主催、ホテルモンテレー仙台、宮城、2014年4月18日(招待講演)
 20. 岡山昭彦、HTLV-1感染症と慢性炎症性疾患。京都大学ウイルス研究所セミナー。2014.京都市
 21. 齋藤 滋：妊婦に対するHTLV-I抗体検査の意義と目的 HTLV-I母子感染予防対策～保健指導等について～、福井県HTLV-1母子感染対策研修会；2015.1.29, 福井。(招待講演)
 22. 齋藤 滋：富山県における協議会設置の経緯と現状。平成26年度HTLV-1母子感染予防講習会；2014.12.14, 東京。
 23. 齋藤 滋：妊婦に対するHTLV-1抗体スクリーニング検査の意義と目的。平成26年度HTLV-1母子感染予防講習会；2014.12.14, 東京。
 24. 齋藤 滋：HTLV-Iスクリーニングの現状とその課題。平成26年度HTLV-I研修会,2014,11,19, 徳島。

(招待講演)

25. 齋藤 滋：妊婦母子感染対策事業から学ぶこと～新しいHTLV-I母子感染対策～. 石川県医師会 第1回周産期医療研修会, 2014, 7, 8, 石川.
(招待講演)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし